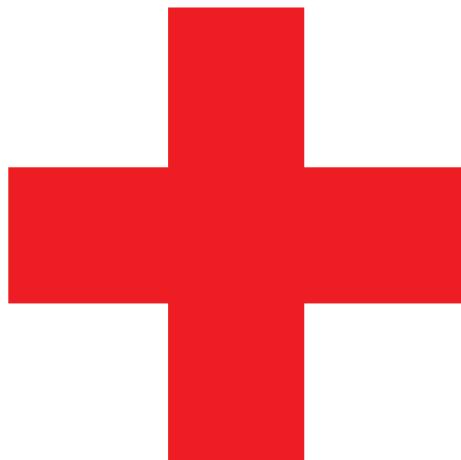


令和6年度
業務年報



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

 日本赤十字社 島根県支部
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るために、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

国際赤十字・赤新月運動の基本原則

■人道 (Humanity)

国際赤十字・赤新月運動（以下、赤十字・赤新月）は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えるという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的および国内的に努力する。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにある。赤十字・赤新月は、すべての民間の相互理解、友情、協力、および堅固な平和を助長する。

■公平 (Impartiality)

赤十字・赤新月は、国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字・赤新月はただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合もっとも急を要する困苦をまっさきに取り扱う。

■中立 (Neutrality)

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字・赤新月は、戦闘行為の時いずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも政治的、人種的、宗教的または思想的性格の紛争には参加しない。

■独立 (Independence)

赤十字・赤新月は独立である。各国の赤十字社、赤新月社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律に従うが、常に赤十字・赤新月の諸原則にしたがって行動できるよう、その自主性を保たなければならない。

■奉仕 (Voluntary Service)

赤十字・赤新月は、利益を求める奉仕的救護組織である。

■単一 (Unity)

いかなる国にもただ一つの赤十字社あるいは赤新月社しかありえない。赤十字社、赤新月社は、すべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行なわなければならない。

■世界性 (Universality)

赤十字・赤新月は世界的機構であり、その中においてすべての赤十字社、赤新月社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。

*宣言：第20回赤十字・赤新月国際会議（1965年、ウィーン）

*改定：第25回赤十字・赤新月国際会議（1986年、ジュネーブ）

目 次

I 支部の運営状況

1. 諸会議	P 4
(1) 評議員会	
(2) 監査	
(3) 赤十字業務推進協議会	
2. 令和6年度一般会計歳入歳出決算.....	P 5

II 赤十字会員と社資（会費と寄付金）の募集状況

1. 赤十字会員の募集状況.....	P 6
2. 社資（会費と寄付金）の募集状況.....	P 6
3. 日本赤十字社有功章等の贈呈	P 6
(1) 社資功労	
(2) 役職功労	
(3) 協賛委員功労	
4. 島根県赤十字有功会の活動	P 6
(1) 会員数	
(2) 活動状況	

III 赤十字の普及と広報活動の推進

1. 令和6年全国赤十字大会	P 9
2. 赤十字の普及と広報活動の推進.....	P 9
(1) 赤十字運動月間における活動	
(2) 広報紙及び資料の配布・貸し出し	
(3) ホームページによる情報の発信について	
(4) イベント等を通じた広報活動の実施について	
(5) 令和6年度『A C T I O N ! 防災・減災プロジェクト』の実施	

IV 事業の実施状況

1. 災害救護活動.....	P 11
(1) 救護体制	
(2) 災害救護訓練	
(3) 救護体制強化のための研修	
(4) 災害関係諸会議	
(5) 災害情報収集、分析、共有について	
(6) 国内及び支部管内の災害救護・救援活動の状況	
(7) 小災害への対応	
(8) 赤十字防災セミナーの開催	
(9) 日本赤十字社防災教育事業（赤十字防災セミナー）における支部指導者養成研修会の開催	
(10) 主な救護資機材の整備状況	
(11) スポーツ集会等への救護員の派遣	

2. 救護看護師の養成	P 21
(1) 医療施設における救護看護師の養成	
(2) 救護看護師養成奨学金制度	
3. 救急法・健康生活支援講習等の講習普及活動	P 22
(1) 救急法	
(2) 水上安全法	
(3) 健康生活支援講習	
(4) 幼児安全法	
4. 青少年赤十字	P 35
(1) 加盟校とメンバー数	
(2) 活動状況	
5. 赤十字奉仕団	P 43
(1) 奉仕団の概況	
(2) 奉仕団の設置と活動状況	
(3) 赤十字奉仕団支部指導講師	
6. 医療事業・保健衛生活動	P 50
(1) 松江赤十字病院	
(2) 益田赤十字病院	
(3) 隠岐島前地区巡回診療	
7. 血液事業	P 54
(1) 島根県赤十字血液センター	
(2) 献血運動の推進	
8. 社会福祉事業	P 58
(1) 松江赤十字乳児院	
(2) 県内児童福祉施設への援護 (『児童福祉施設支援金』の贈呈)	
9. 国際活動	P 59
(1) 海外救援金の取扱い	
(2) 中四国 (第5ブロック) 各県支部共同国際救援事業	
(3) 第42回N H K海外たすけあいキャンペーン	
(4) 国際人道法セミナーの開催	

＜参考資料＞

- 参考1：評議員・支部役員名簿
- 参考2：支部長・副支部長・監査委員及び支部・施設幹部職員
- 参考3：日本赤十字社島根県支部事務局職員
- 参考4：令和6年度日本赤十字社島根県支部及び各施設の決算概況
- 参考5：日本赤十字社島根県支部現勢
- 参考6：地区分区事務局名簿

I 支部の運営状況

1. 諸会議

(1) 評議員会

島根県支部では、日本赤十字社定款第70条及び第71条に基づき、評議員会を年2回実施し、収支予算、事業計画、収支決算、役員選出等の議案を審議している。

令和6年度は、第104回評議員会を6月に参集形式で開催し、第105回評議員会を2月に文書審議にて実施した。なお、議案は次のとおりで、全議案とも原案どおり承認された。



ア. 第104回評議員会（期日：令和6年6月11日 会場：島根県民会館 第1・第2多目的ホール）

第1号議案 令和5年度 日本赤十字社島根県支部一般会計歳入歳出決算について
第2号議案 令和5年度 松江赤十字病院医療施設特別会計歳入歳出決算について
第3号議案 令和5年度 益田赤十字病院医療施設特別会計歳入歳出決算について
第4号議案 令和5年度 松江赤十字乳児院社会福祉施設特別会計歳入歳出決算について
第5号議案 令和5年度 島根県赤十字血液センター事業報告について

イ. 第105回評議員会（文書審議により実施 *天候悪化のため）

第1号議案 令和7年度 日本赤十字社島根県支部事業計画について
第2号議案 令和7年度 日本赤十字社島根県支部一般会計歳入歳出予算について
第3号議案 令和7年度 松江赤十字病院医療施設特別会計歳入歳出予算について
第4号議案 令和7年度 益田赤十字病院医療施設特別会計歳入歳出予算について
第5号議案 令和7年度 松江赤十字乳児院社会福祉施設特別会計歳入歳出予算について
第6号議案 令和7年度 島根県赤十字血液センター事業計画について
第7号議案 日本赤十字社代議員の選出について

(2) 監査

支部事務局が、事前に各赤十字施設に対し、事務局監査（事業実施状況聴取）を実施したうえで、令和6年6月5日に、監査委員による令和5年度の島根県支部並びに各赤十字施設の業務の管理及び執行状況の監査を行い、適正であるとの報告を得た。

ア. 事務局監査

令和6年5月21日 対象：島根県赤十字血液センター
令和6年5月21日 対象：松江赤十字乳児院
令和6年5月22日 対象：松江赤十字病院
令和6年5月23日 対象：益田赤十字病院

イ. 監査委員監査

令和6年6月5日 対象：日本赤十字社島根県支部、県内赤十字施設

(3) 赤十字業務推進協議会

社業の振興並びに赤十字業務の一層の推進を図るため、下記のとおり赤十字業務推進協議会を開催した。

開催日 令和7年2月3日

会場 日本赤十字社島根県支部（松江市）

出席者 島根県地域福祉課1名、地区分区18名、支部事務局7名 計26名

報告事項 ①令和6年度社資募集状況について

②令和6年度島根県支部主要事業について

協議事項 ①令和7年度島根県支部事業計画（案）について

②令和7年度島根県支部予算（案）及び

令和7年度地区・分区分別社資目標額（案）について

2. 令和6年度一般会計歳入歳出決算

(単位：円)

【歳入】		【歳出】	
科 目	決算額	科 目	決算額
社資収入	182,786,961	災害救護事業費	16,570,230
委託金収入	4,591,804	社会活動費	31,989,950
補助金及び交付金収入	7,630,700	国際活動費	680,237
繰入金収入	1,300,000	指定事業地方振興費	1,000,000
資産収入	1,581,830	地区分区交付金支出	13,203,762
雑収入	2,230,330	社業振興費	19,889,313
前年度繰越金	21,232,820	基盤設備交付金・補助金支出	1,000,000
		積立金支出	57,934,144
		総務管理費	30,682,910
		資産取得及び資産管理費	2,143,756
		本社送納金支出	26,968,044
歳入合計	221,354,445	歳出合計	202,062,346
歳入歳出差引額		19,292,099	

II 赤十字会員と社資（会費と寄付金）の募集状況

1. 赤十字会員の募集状況

日本赤十字社の活動は、赤十字の理念に賛同し、支援いただく赤十字会員によって支えられている。赤十字会員は、日本赤十字社の組織の基盤をなすものであり、本年度も、一人でも多くの方に赤十字会員に加入していただけるようその募集に努めた。

○赤十字会員数

個人（人）	法人（社）	合計
113,268	486	113,754

○会員（特別会員）数 *左記会員数の内

個人（人）	法人（社）	合計
1,643	486	2,129

2. 社資（会費と寄付金）の募集状況

日本赤十字社の活動資金は、赤十字会員の拠出する会費と、その他寄付金（「会費」と「寄付金」の総称を「社資」という）によって支えられており、地区分区をはじめ、自治会や町内会の皆さまのご理解とご協力を得て、その募集を行っている。

本年度の状況は目標額156,500,000円に対し、総納入額182,786,961円（対前年度 41,366,290円増）であり、達成率は、116.8%となった。その内、地区分区の取り扱いは、目標額133,112,200円に対し、納入額99,194,963円（対前年度2,325,317円減）であり、達成率は74.5%となった。（別表 I のとおり）

3. 日本赤十字社有功章等の贈呈

日本赤十字社では、社資または社業振興に顕著な功労のあった方々に対し、日本赤十字社有功章社員章等贈与規則に基づき、表彰を行っている。また、功労内容によっては国の表彰制度が適用となるため、適宜、国へ上申している。令和6年度における有功章等の贈呈状況は次のとおり。

（1）社資功労

紺綬褒章	1 件（個人 1 名）
厚生労働大臣感謝状	1 件（個人 1 名）
日本赤十字社社長感謝状	8 件（個人 2 名・法人 6 社）
日本赤十字社金色有功章	9 件（個人 4 名・法人 5 社）
日本赤十字社銀色有功章	21 件（個人 7 名・法人 14 社）

（2）役職功労

日本赤十字社金色有功章	1 件（個人 1 名）
日本赤十字社銀色有功章	1 件（個人 1 名）

（3）協賛委員功労

日本赤十字社金色有功章	3 件（個人 3 名）
日本赤十字社銀色有功章	1 件（個人 1 名）

4. 島根県赤十字有功会の活動

島根県赤十字有功会は、赤十字に対する支援団体として平成10年に設立され、社資や義援金等への協力をはじめ、赤十字活動に対して様々な支援を行っている。

(1) 会員数 (令和7年3月31日現在)
個人90名 法人101社 計191会員

(2) 活動状況

ア. 会議の状況

名 称	期 日	会 場	備 考
島根県赤十字有功会正副会長会議	4月24日	サンラポーむらくも (松江市)	会長・副会長・事務局 計10名出席
島根県赤十字有功会総会	7月26日	サンラポーむらくも (松江市)	会員・事務局 計43名出席
日赤紺綏・有功会会長協議会総会	11月6日	ホテルメトロポリタン盛岡 (岩手県盛岡市)	副会長・事務局 計2名参加

イ. 研修等の状況

名 称	期 日	会 場	備 考
全国赤十字大会	5月15日	明治神宮会館(東京都渋谷区)	3会員参加

ウ. 地域福祉への貢献事業 (地区分区に対する防災設備・備品等の寄贈事業)

寄贈品目	数 量	寄 贈 先
ポータブル電源 (充電用ソーラーパネル付)	3台	江津市地区(2台)、川本町分区(1台)

エ. 赤十字活動への支援事業

対象施設	寄 贈 品	数 量
益田赤十字病院	ストレッチャースケール(ストレッチャー型の体重計)	1台

オ. 赤十字社資・国内義援金・海外救援金への協力活動の状況

名 称	内 容・状 況		
赤十字社資	協力件数・金額	198件	8,718,000円
令和6年能登半島地震災害義援金	協力件数・金額	6件	1,754,192円
令和6年7月25日からの大雨災害義援金	協力件数・金額	3件	25,000円
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	協力件数・金額	5件	135,000円
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	協力件数・金額	3件	25,000円
ウクライナ人道危機救援金	協力件数・金額	1件	10,000円
2024年台湾東部沖地震救援金	協力件数・金額	5件	78,000円
中東人道危機救援金	協力件数・金額	1件	3,000円
バングラデシュ南部避難民救援金	協力件数・金額	1件	3,000円
アフガニスタン人道危機救援金	協力件数・金額	1件	3,000円
イスラエル・ガザ人道危機救援金	協力件数・金額	1件	10,000円
NHK海外たすけあい	協力件数・金額	41件	634,000円

令和 6 年度社資内訳表

地区分区	目標額 (円)	実績額 (円)	達成率	一般社資			法人社資		
				目標額 (円)	小計 (円)	達成率	目標額 (円)	小計 (円)	達成率
松江市	32,876,600	19,184,395	58.4%	31,798,600	18,493,395	58.2%	1,078,000	691,000	64.1%
浜田市	12,932,500	9,910,011	76.6%	12,628,500	9,802,611	77.6%	304,000	107,400	35.3%
出雲市	29,521,900	20,168,211	68.3%	28,657,900	18,442,211	64.4%	864,000	1,726,000	199.8%
益田市	11,087,400	11,761,834	106.1%	10,812,400	10,774,834	99.7%	275,000	987,000	358.9%
大田市	8,180,200	6,637,380	81.1%	8,004,200	6,324,380	79.0%	176,000	313,000	177.8%
安来市	7,946,000	6,371,342	80.2%	7,779,000	6,123,342	78.7%	167,000	248,000	148.5%
江津市	5,851,500	5,254,782	89.8%	5,724,500	5,254,782	91.8%	127,000	0	0.0%
雲南市	7,904,400	6,262,255	79.2%	7,718,400	6,262,255	81.1%	186,000	0	0.0%
市地区計	116,300,500	85,550,210	73.6%	113,123,500	81,477,810	72.0%	3,177,000	4,072,400	128.2%
奥出雲町	2,753,400	2,282,205	82.9%	2,683,400	2,249,205	83.8%	70,000	33,000	47.1%
飯南町	1,091,100	1,048,885	96.1%	1,061,100	1,048,885	98.8%	30,000	0	0.0%
川本町	800,100	828,210	103.5%	780,100	828,210	106.2%	20,000	0	0.0%
美郷町	1,158,400	1,039,616	89.7%	1,136,400	1,039,616	91.5%	22,000	0	0.0%
邑南町	2,436,100	2,161,900	88.7%	2,387,100	2,161,900	90.6%	49,000	0	0.0%
津和野町	1,909,800	1,389,555	72.8%	1,862,800	1,389,555	74.6%	47,000	0	0.0%
吉賀町	1,544,600	1,147,850	74.3%	1,506,600	1,147,850	76.2%	38,000	0	0.0%
海士町	573,700	544,857	94.97%	564,700	544,857	96.5%	9,000	0	0.0%
西ノ島町	783,100	534,050	68.2%	771,100	534,050	69.3%	12,000	0	0.0%
知夫村	179,500	230,100	128.2%	178,500	230,100	128.9%	1,000	0	0.0%
隠岐の島町	3,581,900	2,437,525	68.1%	3,487,900	2,437,525	69.9%	94,000	0	0.0%
町村分区計	16,811,700	13,644,753	81.2%	16,419,700	13,611,753	82.9%	392,000	33,000	8.4%
地区分区計	133,112,200	99,194,963	74.5%	129,543,200	95,089,563	73.4%	3,569,000	4,105,400	115.0%
支部直扱い	23,387,800	83,591,998	357.4%	11,327,667	69,839,603	616.5%	12,060,133	13,752,395	114.0%
総合計	156,500,000	182,786,961	116.8%	140,870,867	164,929,166	117.1%	15,629,133	17,857,795	114.3%

Ⅲ 赤十字の普及と広報活動の推進

赤十字の理念や活動に対する県民への理解を深め、会員の一層の増強を図るため、5月の赤十字運動月間をはじめ、年間を通じ、様々な広報活動に取り組んでいる。

1. 令和6年全国赤十字大会

会員の増強と赤十字思想の普及を図り、今後一層の社業の進展を期するため、毎年、赤十字運動月間の5月に開催されている『全国赤十字大会』が令和6年度は日本赤十字社名誉総裁である皇后陛下、名誉副総裁である各宮妃殿下のご臨席のもと、下記のとおり開催された。本県からも有功会員、地区分区職員、赤十字奉仕団員、青少年赤十字指導者、支部・施設職員等の15名が参会した。



期日 令和6年5月15日
会場 明治神宮会館（東京都渋谷区代々木神園町1番1号）
内容 プロローグ、式典、実践活動報告

2. 赤十字の普及と広報活動の推進

日本赤十字社では、日本赤十字社創立日（5月1日）や世界赤十字デー（5月8日 *創立者アンリー・デュナンの誕生日）など、赤十字にゆかりの深い5月を赤十字運動月間とし、赤十字への理解と活動資金への協力を呼びかける広報キャンペーンを全国で実施している。

当支部においても、赤十字運動月間を中心に、様々な広報活動に取り組み、赤十字の普及に努めた。

（1）赤十字運動月間における活動

ア. 広報用グッズの配布

各地区分区において、赤十字会員増強運動にかかる協賛委員・自治会役員や会議の参加者などに下記のとおり、広報用グッズを配布いただいた。

広報用グッズの内容 赤十字広報用カットパン
広報用グッズの配布数 13,500枚

イ. メディアを活用した活動

赤十字活動への理解促進のため、日赤本社による全国での地上波テレビCMを実施したほか、地区分区と連携し、※各ケーブルテレビ放送でのテレビCMを実施した。

※CM実施ケーブルテレビ局

山陰ケーブルビジョン、ひらたCATV、サンネットにちはら、雲南夢ネット飯南エリア
おおなんケーブルテレビ、にしのしま光ネット、ぎんざんテレビ

ウ. レッドライトアッププロジェクト2024

「世界赤十字デー」である5月8日を中心に、全国の赤十字施設や歴史的建造物やランドマークとなる施設などを赤十字カラーである赤色にライトアップし、赤十字への理解と共感を広く国民に呼びかける本プロジェクトに対応して、島根県支部においても次のとおり実施した。

実施日時 5月7日・8日・9日の3日間 *各日共通：日没後～22時

実施場所 松江城、山陰中央テレビジョン放送株式会社（鉄塔）、株式会社山陰合同銀行（本店ビル）
計3カ所

(2) 広報紙及び資料の配布・貸し出し

種別	名 称	備 考 (配布・貸出先等)
日赤本社発行	赤十字新聞 (毎月発行)	地区分区、社会教育施設、奉仕団、有功会員、青少年赤十字加盟校、報道機関 等に配布
	赤十字運動月間パンフレット	地区分区 (協賛委員等)、社会教育施設 等に配布
	赤十字広報ポスター	地区分区、社会教育施設 等に配布
島根県支部発行	しまねの赤十字	県内全体に配布 (年2回発行 [計355,000部発行])
	赤十字への協力について	地区分区 (協賛委員等) に配布
	赤十字活動各種パネル	地区分区、赤十字施設、青少年赤十字加盟校等に貸出
	青少年赤十字 SHIMANE	県内全小中高校、地区分区 等に配布

(3) ホームページによる情報の発信について

令和3年4月より、本社ホームページとの統合を実施しており、見易くタイムリーな情報発信に努めている。

(4) イベント等を通じた広報活動の実施について

県民の皆さんに、より赤十字の活動を身近に感じてもらい、よき理解者として赤十字をご支援いただけるよう、下記のとおりイベント等を通じた広報活動を行った。



イベント名	期 日	会 場	実施内容
『第49回飯南町ぼたんまつり2024』 ※日赤飯南町分区参加イベント	5月12日	飯南町役場周辺 (飯南町)	救援物資・パネル展示 等
『出雲市災害復興活動支援展』	5月19日	出雲市民会館 (出雲市)	パネル展示
『SDGsエシカルマルシェ』 ※出雲市赤十字奉仕団 (出雲市連合婦人会) 主催イベント	8月18日	朱鷺会館 (出雲市)	救援物資・パネル展示、救急法ミニ講習コーナー 等
『令和6年度島根県西部地震から6年 フォーラム』 ※日赤大田市地区参加イベント	8月25日	大田市民会館 (大田市)	ハートラ着ぐるみによるPR活動、防災グッズ展示 等
『松江赤十字病院ヘリポート見学会』	10月5日	松江赤十字病院 (松江市)	災害救援車展示、救援物資・パネル展示 等
『島根大学学園祭り』 ※島根大学学生赤十字奉仕団ぶらす参加イベント	10月13日 10月14日	島根大学 (松江市)	救援物資・パネル展示 等
『ごうつ秋まつり2024』 ※日赤江津市地区参加イベント	11月17日	パレット江津 (江津市)	救急法ミニ講習コーナー、子ども救護服記念撮影コーナー等

(5) 令和6年度『ACTION ! 防災・減災プロジェクト』の実施

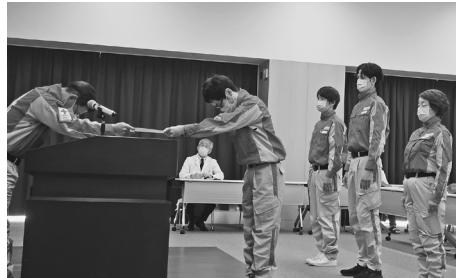
日本赤十字社では、平成27年度から毎年、東日本大震災が起きた3月に、地域社会に向け「防災・減災への備え」を訴求するプロジェクト「ACTION ! 防災・減災」を実施している。

島根県支部においても、このプロジェクトの趣旨に賛同いただいた県内の31社 (団体) とともに、このプロジェクトに取り組んだ。

IV 事業の実施状況

1. 災害救護活動

被災された人々を救護する業務は、日本赤十字社の最も重要な事業であり、根幹をなすものである。「災害救助法」(同法に基づき支部は島根県と救助業務委託契約を締結)及び「災害対策基本法」、並びに「大規模災害特別措置法」においても、国及び地方公共団体の行う防災・救助業務への協力が義務付けられている。当支部では、常に災害に備え、救護員の確保と訓練の実施、救護資機材の充実に努め、救護体制の確保に万全を期している。



(1) 救護体制

ア. 救護班要員の登録式と研修

区分	日程	常備 救護班数	医師 (班長含む)	薬剤員	赤十字 看護師長	赤十字 看護師	主事 (兼:自動車操作要員)
松江赤十字病院	5月31日	3個班	6人	3人	3人	9人	3人
益田赤十字病院	5月9日	2個班	4人	2人	2人	6人	2人

※他に、日赤島根県支部への災害時支援要員として、松江赤十字病院4人、益田赤十字病院2人、島根県赤十字血液センター2人を登録研修する。

イ. その他の救護体制

①日赤災害医療コーディネートチーム

区分	日本赤十字社 島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院	島根県赤十字 血液センター
医 師	一	3人	1人	一
薬 剤 師	一	1人	一	一
看 護 師	一	2人	2人	一
口 ジ	2人	1人	1人	1人

※平成25年10月1日付で本社と各都道府県支部単位に、医師である災害医療コーディネーターとその支援にあたるコーディネートスタッフによって構成される「日赤災害医療コーディネートチーム」を設置した。日本赤十字社救護規則第7条に定める本社又は支部の災害救護実施対策本部要員の一員として、専門的な助言や自治体・他の医療救護機関等との連携や調整等の役割を担う。



②こころのケア指導者

区分	日本赤十字社 島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院	島根県赤十字 血液センター
医 師	—	—	—	—
看護師長	—	9人	3人	—
看 護 師	1人	2人	2人	—
主 事	—	—	2人	1人

③島根県原子力防災緊急被ばく医療体制における医療班

区分	日本赤十字社島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院
医療本部協力	1名	—	—
スクリーニング	—	2チーム（18名）	2チーム（18名）
診断除染	—	2チーム（14名）	—
初期被ばく医療	—	1チーム（8名）	—

④災害派遣医療チーム（D M A T）

区分	医師	赤十字 看護師長	赤十字 看護師	主事
日本赤十字社島根県支部	—	—	—	1人
松江赤十字病院	2人	2人	5人	7人
益田赤十字病院	4人	3人	6人	6人

※平成29年7月4日付で島根県と松江赤十字病院ならびに益田赤十字病院間で「島根D M A Tの派遣に関する協定書」を締結し、災害の急性期において知事からの要請を受けて出動し、原則、県内の災害現場で救命活動を行う（ただし、他の都道府県から派遣要請があり、必要と認めた場合には県外へも派遣する）。

また、平成22年10月16日付けで「中国地区D M A T協議会」が設置されており、中国5県の緊密な連携を図り、中国地区でのD M A T活動がスムーズに行われるよう、訓練や研修を実施している。

（2）災害救護訓練

No.	訓 練 名	期 日	会 場	参加人数（人）						
				島 根 県 支 部	松 江 赤 十 字 病 院	益 田 赤 十 字 病 院	血 島 液 根 セ ン 赤 十 字 奉 仕 團	赤 十 字 支 部	山 口 赤 十 字 支 部	
1	EMIS 通信訓練	5月30日	松江赤十字病院	—	2	2	—	—	—	—
2	島根県行政防災無線通信訓練	6月12日 6月14日	島根県支部 松江赤十字病院 益田赤十字病院	2	2	2	—	—	—	—
3	第4ブロック各県支部合同 災害救護訓練	6月15日	和歌山県	4	6	—	—	—	—	—

4	出雲空港航空機事故 消火救難総合訓練	9月12日	出雲空港	-	-	5	-	-	-
5	益田赤十字病院災害対応訓練	9月13日 9月14日	益田赤十字病院	-	-	105	-	-	-
6	大規模地震時医療活動訓練	9月28日	東京都	-	4	5	-	-	-
7	島根県総合防災訓練 (実働訓練)	10月27日	益田市	4	-	45	-	18	7
8	第5ブロック各県支部合同 災害救護訓練	11月9日	山口県	2	-	1	-	-	-
9	松江赤十字病院災害対応訓練	11月23日	松江赤十字病院	-	84	1	-	-	-
10	中国地区 DMAT 連絡協議会 (実働訓練)	11月30日	広島県	-	2	5	-	-	-
11	島根県総合防災訓練 (図上訓練)	2月6日	島根県庁	2	4	2	-	-	-

(3) 救護体制強化のための研修

日本赤十字社（本社）及び島根県支部が災害救護事業にかかる研修事業を実施し、救護要員の資質の向上を図った。

No.	研修名	期日	会場	参加人数（人）			
				島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院	血液島根セントラル赤十字
1	島根県支部常備救護班員・救護要員・支援員研修	5月9日	益田赤十字病院	5	-	53	-
2	島根県支部常備救護班員・救護要員・支援員研修	5月31日	松江赤十字病院	5	26	-	2
3	救護看護師、新規採用職員災害救護研修	9月28日	松江赤十字病院	4	51	-	-
4	こころのケア指導者養成研修	10月9日 10月10日	日本赤十字社本社	-	1	1	-
5	日赤災害医療コーディネート研修会	11月23日 11月24日	日本赤十字社本社	1	1	-	-
6	救護看護師災害救護研修	11月27日	益田赤十字病院	3	-	7	-
7	厳冬期避難所展開宿泊演習	1月18日 1月19日	赤十字北海道看護大学	2	-	2	-
8	日赤災害医療コーディネートフォローアップ研修会	2月15日	島根県支部 松江赤十字病院 益田赤十字病院	1	3	-	-
9	全国赤十字救護班研修会	2月22日 2月23日	日本赤十字社 広島県支部	2	6	3	-

(4) 災害関係諸会議

No.	会議名	期日	会場	参加人数(人)					
				島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院	島根県赤十字病院	血液センター	防災ボランティアリーダー地区リーダー
1	島根県DMA T連絡協議会	3月21日	島根県民会館及びWEB会議	1	1	1	—	—	—
2	島根県災害医療関係機関連絡会議	3月21日	島根県民会館及びWEB会議	1	—	—	—	—	—
3	島根県防災会議	3月13日	くにびきメッセ	1	—	—	—	—	—



(5) 災害情報収集、分析、共有について

①島根県総合防災情報システムの運用

②広域災害救急医療情報システム（EMIS）の運用

(6) 国内及び支部管内の災害救護・救援活動の状況

国内義援金の取扱い（集計期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日）

No.	受付項目	件数(件)	金額(円)
1	令和6年能登半島地震災害義援金	417	32,327,744
2	令和6年7月25日からの大雨災害義援金	11	72,716
3	令和6年9月能登半島大雨災害義援金	349	14,341,608
4	令和6年沖縄県北部豪雨災害義援金	1	1,692
5	令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	15	70,172
合計		793	46,813,932

(7) 小災害への対応

県内の火災・風水害・雪害等による災害被災世帯に対し見舞金・見舞品（救援物資）を、また、住居以外の工場・店舗等の被災には見舞金を贈呈している。その他、火災・風水害等による死者者に対しては弔慰金を贈呈した。

ア. 住家災害

市町村名	対象世帯	対象人数	見舞品目			見舞金（円）
			毛布（枚）	緊急セット（点）	タオルケット（枚）	
松江市	11	34	9	6	0	50,000
浜田市	3	4	2	3	1	15,000
出雲市	10	18	2	9	5	50,000
益田市	2	2	2	2	0	10,000
大田市	2	2	2	2	0	10,000
安来市	1	2	2	1	2	5,000
江津市	0	0	0	0	0	0
雲南市	3	9	7	3	0	15,000
奥出雲町	2	3	3	2	0	10,000
飯南町	1	2	2	1	0	5,000
川本町	2	2	2	2	1	10,000
美郷町	0	0	0	0	0	0
邑南町	0	0	0	0	0	0
津和野町	1	1	0	1	0	5,000
吉賀町	3	5	0	3	0	15,000
海士町	0	0	0	0	0	0
西ノ島町	0	0	0	0	0	0
知夫村	0	0	0	0	0	0
隱岐の島町	0	0	0	0	0	0
合計	41	84	33	35	9	200,000

イ. 工場・店舗災害見舞金

件数（件）	金額（円）
2	20,000

ウ. 死亡弔慰金

項目	件数（件）	金額（円）
災害による死亡弔慰金	12	120,000

(8) 赤十字防災セミナーの開催

(人)

開催日	開催地域	実施団体	災害への備え	災害図上訓練	ゲ災ラ害フエイスノ	～ひなんじょたいけんH U G	支部独(※)	受講者(人)
5月15日	浜田市	JAしまねいわみ中央本部	○	-	-	-	-	35
5月31日	出雲市	島根県高文連	○	-	-	-	○	150
6月2日	出雲市	遙堪地区防災会議	○	-	-	-	-	50
6月30日	邑智郡	沢谷地区連合自治会	○	-	-	-	-	20
7月8日	江津市	江津地区地域赤十字奉仕団	○	-	-	-	○	55
8月24日	益田市	益田市社会福祉協議会	-	-	-	○	-	80
8月30日	出雲市	JAしまね出雲地区本部	-	-	-	○	-	35
9月3日	浜田市	浜田市社会福祉協議会	○	-	-	-	-	70
9月6日	出雲市	JAしまね出雲地区本部	-	-	-	○	-	30
9月8日	益田市	安田地区連合自治会	-	○	-	-	-	60
9月19日	安来市	安来市立第二中学校	-	-	-	○	-	25
9月26日	出雲市	JAしまね出雲地区本部	-	-	-	○	-	25
9月28日	松江市	松江赤十字病院	-	-	-	○	-	53
10月4日	出雲市	JAしまね出雲地区本部	-	-	-	○	-	25
11月10日	出雲市	荒木地区災害対策本部	○	-	-	-	-	23
11月12日	出雲市	島根県高文連	○	-	-	-	○	58
11月19日	出雲市	出雲市立南中学校	○	-	-	-	-	67
11月27日	益田市	益田赤十字病院	-	-	-	○	-	10
11月30日	出雲市	湖陵地区社会福祉協議会	○	-	-	-	○	23
12月14日	海士町	海士町教育委員会(菱浦地区)	-	-	-	○	-	23
12月15日	海士町	海士町教育委員会(崎地区)	-	-	-	○	-	12
1月22日	益田市	益田市ボランティアセンター	-	-	-	○	-	40
1月24日	出雲市	出雲市立河南中学校	○	-	-	-	-	95
1月25日	出雲市	平田地区防災安全委員会	○	-	-	-	-	38

1月27日	益田市	益田市社会福祉協議会	-	-	-	○	-	13
2月4日	雲南市	島根県立三刀屋高校	○	-	-	-	-	303
2月9日	出雲市	大社地域行政センター	○	-	-	-	-	37
2月13日	松江市	JRC指導者協議会	○	-	-	-	-	28
2月15日	出雲市	莊原コミュニティセンター	○	-	-	-	○	38
2月27日	大田市	宅野コミュニティセンター	○	-	-	-	-	23
3月1日	益田市	小野地区自主防災組織	-	-	-	○	-	56
3月5日	安来市	安来市立第二中学校	○	-	-	-	○	28
3月18日	益田市	鎌手公民館	○	-	-	-	-	25
受講者計								1,653 (850)

※参考：受講者計（ ）は令和5年度同時期実績

※支部独自プログラム・・・避難所について、ダンボールベッド、濡れない足湯、炊き出し、リラクゼーション、ホットタオル等

(9) 日本赤十字社防災教育事業(赤十字防災セミナー)における支部指導者養成研修会の開催

No.	研修名	期日	会場	参加人数(人)			
				島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院	血島液根セント十字
1	防災教育事業主任指導者研修	9月4日 9月5日	日本赤十字社本社	-	1	-	-
2	防災教育事業主任指導者研修	9月14日 9月15日	日本赤十字社本社	1	-	-	-
3	防災教育事業指導者養成研修	12月2日 12月3日	島根県支部	3	2	2	-
4	防災教育事業指導者 フォローアップ研修	12月2日	島根県支部	-	3	1	-



(10) 主な救護資機材の整備状況

項目	資機材名	数量
通信機器	無線機（150 MHz 帯・400 MHz 帯の基地局・移動局）	53
	衛星携帯電話（イリジウム）	2
	衛星車載電話（ワイドスター）	1
	簡易無線機	10
救護資機材	医療セット	3
	エアーテント（大） ※患者等収容用テント	2
	エアーテント（小） ※診察用テント	1
	災害用移動炊飯器	78
	パイプテント	3
	ワンタッチテント	2
	発電機	6
	蓄電池	2
	折畳寝台	37
	簡易ベッド	10
	担架	26
	担架架台	22
	バルーン投光器	3
	投光器	4
	ドンネル式ライト	2
	GMサーバイメータ	4
	AED（自動体外式除細動器）	5
	除染セット ※エアーテント、防護服、AED等	1
車両	災害救援車	12
	内訳：日赤島根県支部 7台	
	松江赤十字病院 2台	
	益田赤十字病院 3台	
救援物資	毛布	1,320
	タオルケット	1,480
	緊急セット	588
	安眠セット	520
その他	国内型緊急対応ユニット（dERU）	3

※国内型緊急対応ユニット（dERU）については、中四国各県支部共有の救護資機材であり、現在は、香川県支部（17年度整備）、広島県支部（19年度整備）、高知県支部（21年度整備）に配備している。

(11) スポーツ集会等への救護員の派遣

スポーツ、集会等広域的に実施される多数の参加者が集まる公益的な行事の際に不慮の傷病者の救護にあたるため救護員を派遣した。

No.	日数 (日)	対応施設	派遣期日	行 事 名	対象者数 (人)	医 師 (人)	看 護 師 (人)	被 救 護 者 数(人)
1	1	松江	5月31日	第62回島根県高等学校総合体育大会空手道競技大会	120	1		0
	1	松江	6月1日	第62回島根県高等学校総合体育大会空手道競技大会	90	1		6
2	1	松江	6月13日	令和6年度島根県警察逮捕術大会	350	1		3
3	1	松江	6月14日	令和6年度島根県警察柔道・剣道大会	480	1		5
4	1	松江	6月15日	第40回中国高等学校総合体育大会空手道競技大会	430	1	1	5
5	1	松江	6月16日	第40回中国高等学校総合体育大会空手道競技大会	400	1	1	0
6	1	松江	7月6日	第44回全日本バレーボール小学生大会 島根県大会	1,500	1		0
	1	松江	7月7日	第44回全日本バレーボール小学生大会 島根県大会	1,000		1	0
7	1	松江	7月7日	少年武道大会(剣道)	587		1	0
	1	松江	7月14日	少年武道大会(柔道)	259		1	3
8	1	松江	8月4日	2024年度 B & G スポーツ大会中国ブロック大会	130		1	0
9	1	松江	8月25日	マリーンスポーツフェスタ2024	155		1	1
10	1	松江	9月1日	第54回島根県武道振興大会(剣道・柔道・相撲)	1,200		1	4
	1	松江	9月1日	第54回島根県武道振興大会(弓道)	100		1	0
	1	松江	9月1日	第54回島根県武道振興大会(なぎなた・柔剣道)	80		1	0
11	1	松江	9月1日	ユニバーサルマリンアクティビティ体験会	100		1	2
		支部					1	
12	1	松江	9月7日	第2回ウォータースポーツ体験会	120		1	0
13	1	松江	9月8日	第2回ウォータースポーツ体験会	120		1	0
14	1	松江	10月26日	令和6年度島根県高校空手道新人戦	60	1		1
15	1	松江	10月26日	令和6年度中国ブロックスポーツ少年団バレーボール交流大会	120		1	0
16	1	松江	10月27日	令和6年度中国ブロックスポーツ少年団バレーボール交流大会	135		1	0
17	1	松江	11月2日	第22回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会島根県予選	500		1	0
18	1	松江	11月3日	第22回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会島根県予選	250		1	0
19	1	松江	11月3日	JAカップ 第41回島根県学童軟式野球選手権大会	560		1	0
	1	支部	11月4日	JAカップ 第41回島根県学童軟式野球選手権大会	560		1	0
20	1	松江	12月15日	第47回全国スポーツ少年団剣道交流大会島根県予選大会	50		1	0
21	1	松江	3月9日	第24回島根県小学生バレーボール新人大会	500		1	1
計	27				9,956	7	23	31

松江：松江赤十字病院

支部：日本赤十字社島根県支部職員又は登録指導員（水安／水上安全法指導員、救急法／救急法指導員）

2. 救護看護師の養成

医療の高度・専門分化や保健、医療、福祉のニーズが増大する中、医療施設・血液センター・福祉施設などで幅広い業務に対応できる資質の高い看護師の養成は重要な事業であるとともに、救護機関として、災害救護活動の中心をなす看護師の養成は、救護体制整備の基礎となるものである。



(1) 医療施設における救護看護師の養成

日本赤十字社の行う救護活動において、救護活動の中心となる看護師は、赤十字医療施設に看護師として3年以上勤務し、一定の救護教育と訓練を受けたものである。

赤十字の理念や基本原則に則って、災害時において救護看護師として活動できる幅広い能力を身につけるため、3年間にわたる研修を行っており、毎年松江、益田両赤十字病院と連携し災害時の看護、トリアージ、被災者への心理的支援等の必要なカリキュラムを実施している。

ア. 救護員としての赤十字看護師研修

期 日	実施病院	対 象	内 容	人數(人)
4月3日	松江赤十字病院	令和6年度採用看護師他未修者	赤十字概論 I・II・III	79
5月10日	益田赤十字病院	令和5年度採用看護師他未修者	災害看護論 I・II・III・IV	51
9月28日	松江赤十字病院	令和4年度採用看護師他未修者		8
11月27日	益田赤十字病院	令和5年度採用看護師他未修者	救急法基礎講習 救急員養成講習	6
6月1日・2日・8日	益田赤十字病院	令和4年度採用看護師他未修者		16
11月30日・12月1日・2日	松江赤十字病院			

イ. 災害時のこころのケア研修会

実施期日	実施病院	対 象	人數 (人)
8月10日	松江赤十字病院	松江赤十字病院職員	13

(2) 救護看護師養成奨学金制度

松江赤十字看護専門学校の閉校に伴い、必要となる救護看護師養成のため、赤十字教育施設への進学者に向けた奨学金制度を平成16年に立ち上げ、平成18年度から貸与を実施しており、これまで16人が制度を利用した。

※令和6年度末の奨学金貸与状況：貸与を受け在学している奨学生0人

3. 救急法・健康生活支援講習等の講習普及活動

(1) 救急法

災害時はもとより、日常突発的な事故による傷病者に対しての適切な救命手当・応急手当、事故者の搬送法など人命を救助するための知識と技術を普及した。なお、平成19年度より救急法ではA E D（自動体外式除細動器）を用いた講習会を行っている。救急法基礎講習および救急法救急員養成講習は、令和4年4月1日より、「JRC（日本蘇生協議会）ガイドライン2020」に基づいた内容に一部変更された。



講習種別	実施回数（回）	受講者数（人）	認定者数（人）
救急法基礎講習 (4時間)	15 (12)	193 (200)	認定者 193 (199) ※検定者数 193 (200)
救急員養成講習 (12時間)	9 (8)	142 (156)	認定者 139 (154) ※検定者数 140 (155)
短期講習 (適 宜)	219 (194)	6,795 (6,167)	
指導員養成講習 (30時間)	2 (0)	24 (0)	23 (0)
合 計	245 (214)	7,154 (6,523)	

※（ ）は令和5年度実績

(2) 水上安全法

水の事故を防ぐための、水泳事故の防止、泳ぎの基本、溺者の救助法、水難時の救助法、救命手当・応急手当等についての知識や技術を普及した。



講習種別	実施回数（回）	受講者数（人）	認定者数（人）
救助員養成講習〔プール〕 (14時間)	1 (1)	7 (9)	修了者数 7 (8) ※検定者数 7 (9)
救助員養成講習〔海〕 (12時間)	1 (1)	6 (5)	修了者数 6 (5) ※検定者数 6 (5)
短期講習 (適 宜)	14 (10)	372 (296)	
指導員養成講習 (30時間)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計	16 (12)	385 (310)	

※（ ）は令和5年度実績

(3) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を迎えるため、自身の健康管理・健康増進、介護予防高齢者の介護・自立支援のための知識と技術を普及した。



『避難生活支援講習』については、被災した高齢者の避難所生活に焦点をあて、短期講習としての開催の他に、地域における防災セミナー、学校における防災スクールでも実技などを取り入れ実施した。また、『地域で支える認知症』の短期講習も実施した。

講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
支援員養成講習 (9時間)	1 (2)	9 (10)	修了者数: 9 (8) 認定者数: 9 (8)
短期講習(避難生活支援講習) (2時間)	13 (8)	480 (189)	
短期講習(地域で支える認知症) (1.5時間)	1 (1)	61 (15)	
短期講習 (適 宜)	7 (9)	182 (177)	
指導員養成講習 (30時間)	1 (0)	4 (0)	4 (0)
合 計	23 (21)	736 (396)	

※()は令和5年度実績

(4) 幼児安全法

大切な子どものいのちを守るため、乳幼児期に起こりやすい事故の予と応急手当、かかりやすい病気と症状に対する看病のしかた、「乳幼児の一次救命処置」として、乳幼児に特化した心肺蘇生、AEDの使い方についての知識と技術を普及した。また、災害時に備えた『避難生活支援講習』の短期講習を実施した。



講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
支援員養成講習 (10時間)	3 (2)	21 (21)	修了者数: 21 (21) 認定者数: 21 (21)
短期講習 (適 宜)	103 (95)	1,636 (1,449)	
指導員養成講習 (30時間)	1 (1)	10 (6)	10 (6)
合 計	107 (98)	1,667 (1,476)	

※()は令和5年度実績

参考: 令和6年度 総講習実績

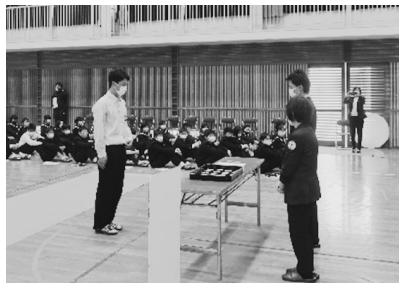
※講習実施状況詳細は別表Ⅱを参照

区分	実施回数(回)	受講者数(人)	区分	実施回数(回)	受講者数(人)
救急法	245 (214)	7,154 (6,523)	健康生活支援講習	23 (21)	736 (396)
水上安全法	16 (12)	385 (310)	幼児安全法	107 (98)	1,667 (1,476)
合 計	391回 (345回)			9,942人 (8,705人)	

※()は令和5年度実績

4. 青少年赤十字

青少年赤十字は、赤十字の精神に基づいて世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、青少年自身が日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切にし、地域社会、国家・世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的としている。



青少年赤十字の活動は、世界の青少年赤十字に共通する3つの実践目標 ①「健康・安全」(生命と健康を大切にする) ②「奉仕」(人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する) ③「国際理解・親善」(広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う)を掲げるとともに、自主的で自律した生活態度を養うために「気づき、考え、実行する」という態度目標を掲げている。

文部科学省が定めている学習指導要領においては、「生きる力」を教育の柱に掲げ、それを「自ら学び、考え、主体的に判断する能力」と位置づけている。青少年赤十字の実践目標や態度目標、そして様々な指導方法は「生きる力」に結びつくものであり、また青少年赤十字の活動は幼児・児童・生徒の「心の教育」、「命を大切にする教育」に寄与するものとして多くの加盟校に活用されている。

(1) 加盟校とメンバー数 (令和7年3月31日現在)

校種	加盟校数	メンバー(男)(人)	メンバー(女)(人)	メンバー(計)(人)	指導者(人)
幼稚園	16	192	173	353	105
保育所(園)	42	1,310	1,265	2,575	711
小学校	98	7,396	7,122	14,502	1,267
中学校	58	5,442	5,167	10,610	933
高等学校・高専	36	6,723	5,930	12,653	979
特別支援学校	13	624	352	976	596
義務教育学校	2	764	753	1,517	100
合計	265 (258)	22,451 (18,912)	20,762 (18,202)	43,186 (37,114)	4,691 (3,965)

※()は令和6年3月31日時点

(2) 活動状況

ア. 会議

島根県青少年赤十字指導者協議会は加盟校の校長、指導者、教育行政関係者により昭和25年6月に設立され、県内外で会議を行い、青少年赤十字の普及や育成に努めている。(役員名簿は、別表IV参照)

事業名	開催時期	開催場所	備考(参加者等)
1 島根県青少年赤十字指導者協議会役員会・総会	6月13日	ホテル白鳥(松江市)	役員会:役員19名、事務局4名 総会:役員17名、指導者10名 事務局4名
2 青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	7月12日	日赤本社(東京都)	指導者協議会長
3 全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会	7月10日～7月11日	日赤本社(東京都)	賛助奉仕団委員長、団員(全国役員)
4 第5ブロック(中四国) 青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会・研修会	10月24日～10月25日	鳥取赤十字病院(鳥取県)	賛助奉仕団委員長、幹事長
5 第5ブロック(中四国) 青少年赤十字指導者協議会長並びに事務担当者会議	11月28日～11月29日	鳥取赤十字病院(鳥取県)	指導者協議会会長、支部担当者
6 島根県青少年赤十字指導者協議会三役会	3月25日	日赤島根県支部	指導者協議会正副会長4名、指導主事2名、 賛助奉仕団正副委員長2名、事務局3名

イ. メンバー対象の研修会・その他事業

青少年の育成を図るため、島根県青少年赤十字指導者協議会、島根県高等学校文化連盟青少年赤十字部門において研修会等の開催やメンバーの派遣を行った。

事業名		開催時期	開催場所	備考(参加者等)
1	島根県高等学校青少年赤十字メンバー春季協議会・指導者会	5月28日	出雲市民会館 (出雲市)	高校メンバー140名、指導者17名
2	島根県青少年赤十字メンバーリーダーシップ・トレーニング・センター(小・中・高合同)	7月31日～8月2日	サン・レイク (出雲市)	メンバー 小：13 中：22 高：20 計55名 指導者 小：3 中：6 高：6 計15名 賛助奉仕団：2名 学生奉仕団：1名 事務局：5名
3	島根県高等学校青少年赤十字メンバー出雲・石見ブロック研修会	11月12日	平田高等学校 (出雲市)	高校メンバー50名、指導者7名
4	島根県青少年赤十字メンバー・リーダーシップ・トレーニング・センター(隠岐会場)	12月7日	西郷中学校 (隠岐の島町)	※諸事情により中止
5	島根県高等学校青少年赤十字メンバー秋季協議会・指導者会	12月13日	出雲市民会館 (出雲市)	高校メンバー95名、指導者15名
6	島根県青少年赤十字メンバー・リーダーシップ・トレーニング・センター(益田会場)	2月1日	益田市総合福祉センター (益田市)	石見地区メンバー 小：4 中：9名 計13名 指導者 小3名 中6名 計9名
7	青少年赤十字スタディー・センター	3月22日～26日	山中湖村 東照館 (山梨県)	高校メンバー1名派遣(大社高校)



ウ. 指導者対象の研修会・その他事業

青少年の育成や青少年赤十字活動へ理解・協力を呼びかけるための、研修会等の開催や、赤十字について理解を深めるための事業への参加を行った。

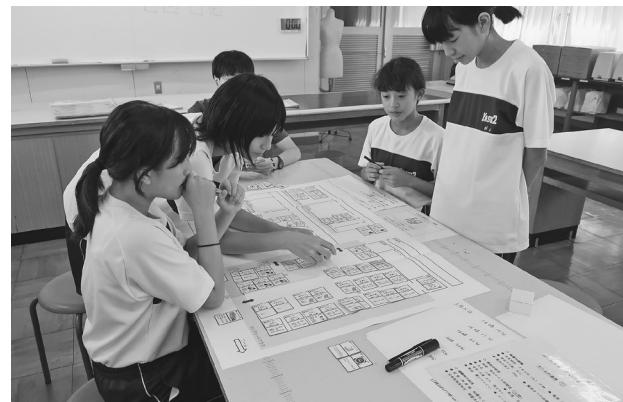
事業名		開催時期	開催場所	備考(参加者等)
1	全国赤十字大会	5月15日	明治神宮会館 (東京都)	指導者協議会副会長1名
2	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター 青少年赤十字指導者養成講習会	5月31日～6月2日	国立オリンピック記念 センター(東京都)	青少年赤十字指導者1名
3	指導主事対象青少年赤十字研究会	1月10日	日赤本社(東京都)	指導主事1名
4	島根県青少年赤十字指導者講習会	2月13日	サンラボーむらくも (松江市)	指導者：25名、県教育庁：1名、奉仕団：8名、 指導者協議会会長、事務局：5名 計40名

エ. 青少年赤十字活動等へのサポート状況

学校での青少年赤十字活動や、防災について学ぶ『防災スクール』などで講師の派遣を行い、サポートを図った。

No	期日	種別	対象	内容
1	4月23日	加盟登録式	安来市立第三中学校	対象：生徒140名、教員31名 内容：JRCについての講話、ちかい唱和、ワッペン贈呈 派遣者：賛助奉仕団員1名、支部職員2名
2	4月24日	加盟登録式	安来市立伯太中学校	対象：生徒110名、教員16名 内容：JRCについての講話、ちかい唱和、ワッペン贈呈 派遣者：賛助奉仕団員1名、支部職員1名
3	6月26日	防災スクール	川本町立川本中学校	対象：生徒58名、教員12名 内容：災害・防災についての講義、炊き出し講義 派遣者：支部職員3名
4	7月4日	加盟登録式	安来市立第一中学校	対象：生徒457名、教員53名 内容：JRCについての講話、ちかい唱和、ワッペン贈呈 派遣者：賛助奉仕団員1名、支部職員1名
5	9月19日	防災スクール	安来市立第二中学校	対象：生徒22名 内容：災害・防災についての講義、「ひなんじょたいけん」 派遣者：支部職員2名
6	10月9日	防災スクール	津和野町立日原小学校	対象：生徒67名、教員13名 内容：災害・防災についての講義 派遣者：益田赤十字病院職員3名
7	11月19日	防災スクール	出雲市立南中学校	対象：生徒61名 内容：災害・防災についての講義 派遣者：支部職員2名
8	1月24日	防災スクール	出雲市立河南中学校	対象：生徒97名 内容：災害・防災についての講義 派遣者：支部職員2名
9	2月4日	防災スクール	島根県立三刀屋高等学校	対象：生徒303名 内容：災害・防災についての講義 派遣者：支部職員2名
10	2月27日	防災スクール	津和野町立津和野小学校	対象：生徒58名、教員7名 内容：災害・防災についての講義、災害時に役立つ技術 派遣者：支部職員1名、益田赤十字病院職員1名、 健康生活支援講習指導員2名
11	3月5日	防災スクール	安来市立第二中学校	対象：生徒24名、教員4名 内容：災害・防災についての講義、段ボールベッド、 災害時に役立つ技術 派遣者：支部職員2名、健康生活支援講習指導員1名

※災害時に役立つ技術…「健康生活支援講習」の中の、濡れない足湯、ホットタオル、リラクゼーション、新聞紙を使ったスリッパ作りなど



オ. 青少年赤十字活動への助成

平成22年度より、青少年赤十字加盟校の活動の充実・振興に資するとともに、未加盟校への啓発を図るため、青少年赤十字活動に対する助成を行っている。1校あたり15,000円を上限に、活動内容に応じて助成しており、今年度の助成校（75校）は下欄のとおりである。

	園名・学校名	活動テーマ
1	松江市立津田小学校	かがやけ 津田っ子だましい
2	松江市立持田幼稚園	ともだちの輪をひろげよう
3	たいしゃ保育園	世代間を超えた交流の中で、互いの存在を知り認め合いながら尊重の心や自尊心を養う
4	県立浜田ろう学校	①浜ろうフェスティバルで花いっぱいの学校にしよう ②ニュースポーツに挑戦しよう
5	松江市立島根中学校	花の訪問（1年生）・地域貢献（3年生）
6	松江市立中央小学校	祝30周年！ ボランティア活動をしよう！
7	西ノ島町立西ノ島小学校	ボランティア活動
8	西ノ島町立西ノ島中学校	地域の海水浴場をきれいにしよう！
9	大田市立志学小学校	「三瓶大すき宿泊体験学習」
10	安来市立井尻小学校	地域の方との交流を深めよう
11	安来市立認定こども園母里	異年齢交流をしよう
12	雲南市立認定こども園海潮こども園	お野菜おいしいね！（食育・栽培） 仲良しのお友だちいっぱい！（地域との交流）
13	吉賀町立柿木小学校	今年も花いっぱいプロジェクト
14	吉賀町立六日市中学校	花に囲まれた落ち着きのある環境づくりⅣ
15	安来市立能義小学校	やさしい気持ちで 友だちや地域の方と つながろう
16	まつお保育園	花と野菜を育てよう
17	大田市立静間小学校	環境を大切にしよう
18	松江市立意東幼保園	栽培活動
19	津和野町立木部小学校	地域の人と交流しよう（米作りを通して）
20	浜田市立旭中学校	一人暮らしの高齢者にメッセージを送ろう
21	大田市立長久小学校	障がいについて理解を深めよう
22	大田市立鳥井小学校	ふるさと鳥居の海岸をきれいにしよう！
23	益田市立戸田小学校	①心肺蘇生法講習会 ②福祉について学ぼう
24	益田市立東陽中学校	地域をきれいにしよう！
25	安来市立母里小学校	みんなが幸せになるために
26	邑南町立石見中学校	①救急法を学ぼう ②ボランティア活動で地域に貢献しよう
27	大田市立温泉津小学校	学校の環境を豊かできれいにしよう！
28	出雲市立遙堪小学校	地域を花いっぱいにしよう
29	松江市立御津保育所	海岸クリーン活動
30	松江市立母衣小学校	①のびのびファームで花・野菜を育てよう ②学校をピカピカにしよう
31	浜田市立金城中学校	地域の文化祭でボランティア活動をしよう
32	川本町立川本中学校	防災について学ぼう
33	隠岐の島町立五箇中学校	地域の施設にボランティアに行こう！
34	奥出雲町立亀嵩小学校	サツマイモを育てて地域の方に感謝を表そう
35	安来市立認定こども園赤屋	人が好き 地域が好き

36	大田市立大田小学校	卒業プロジェクト お掃除大作戦
37	吉賀町立七日市小学校	地域・保育所との交流
38	県立松江南高等学校	課題研究「災害時における手話」
39	益田市立豊川小学校	1. シニア楽校との交流 2. 保育園の友だちとの交流
40	邑南町立瑞穂中学校	園児へ読み聞かせをしよう
41	松江市立大野小学校	交流を通して全児童が本を好きになる楽しい活動をしよう
42	大田市立久手小学校	命の学習をしよう
43	県立三刀屋高等学校	“知って・感じて・交流する” 地域企画いろいろ ~三刀屋の梅とフェアトレードの輪を広げよう~
44	雲南市立佐世小学校	命と性の学習をしよう
45	大田市立第三中学校	ちょボラ三中
46	松江市立朝酌幼稚園	朝酌元気もりもり畠とわくわく広場をつくろう
47	安来市立広瀬小学校	富田川から環境を考えよう
48	安来市立第一中学校	清掃ボランティアをしよう
49	安来市立南小学校	ボランティア活動をしよう！
50	県立飯南高等学校	防災意識を高め、安心安全な暮らしを守ろう！
51	益田市立真砂小学校	地域の方々とふれあおう！
52	益田市立中西小学校	自分と周りの人を大切にしよう。地域の人とつながろう。
53	雲南市立認定こども園掛合保育所	地域を花いっぱいにしよう
54	松江市立佐太幼稚園	○講武幼稚園・御津保育所の友達と仲良くなろう ○野菜とお花を育てよう
55	社会福祉法人 出雲南福祉会 一の谷保育園	食育について考え、食の大切さについて考えよう。
56	奥出雲町立高尾小学校	笑いと健康を地域に届けよう 高尾小チャリティー寄席
57	松江市立母衣幼稚園	地域の方と花苗植え交流をしよう
58	雲南市立認定こども園西こども園	花や野菜を育てる中で、大好きなものと出会おう！
59	県立松江工業高等学校	(1) 校内外の環境整備 (2) 学園祭での防災を呼びかける
60	大田市立川合小学校	地域のお年寄りとの交流
61	安来市立伯太中学校	ボランティア活動を通して、伯太町に貢献しよう！
62	県立江津工業高等学校	清掃活動
63	松江市立意東小学校	異学年交流をしながら、児童が本に親しめる活動をしよう
64	松江市立古江幼稚園	秋鹿幼稚園の友達と仲良くなろう！
65	出雲市立遙堪幼稚園	ボランティア活動をしよう
66	出雲市立今市幼稚園	ボランティア活動をしよう
67	出雲市立上津小学校	ふるさと上津を大切にしよう
68	津和野町立津和野小学校	「防災について考えよう」
69	県立平田高等学校	SDGs「14.海の豊かさを守ろう」に関する調査や活動を行う
70	大田市立仁摩小学校	ボランティア活動～ふるさとの川をきれいにしよう
71	出雲市立伊野小学校	学校をきれいにしよう！
72	県立隠岐高等学校	学校周辺の地域を美しくしよう
73	大田市立大田西中学校	学校・地域に貢献しよう！
74	県立松江清心養護学校	①地域の方を元気にする活動をしよう ②異学年交流を通じて、みんなが笑顔になる活動をしよう
75	益田市立西益田小学校	考え方！やってみよう！平和なまちをめざして

別表Ⅲ

令和6年度島根県青少年赤十字（JRC）加盟校登録状況

* · · · R 5 末統廃合校等

※欄の都合上、義務教育学校は中学校に記載 * * * * R 6 末統廃合校等

市町村	幼・保	人数	小	人数	中	人数	高・特支	人数
松江市	母衣幼	15	母衣	420	第一	848	松江北	769
	城北幼		城北	510	第二		松江南	786
	中央幼		内中原	652	第三	225	松江東	4
	雜賀幼		中央	275	第四		松江工業	9
	津田幼		雜賀	199	湖南		松江商業	
	吉志原幼	34	津田	754	湖東		松江農林	467
	川津幼	24	吉志原		本庄	39	皆美が丘	271
	朝酌幼	7	川津	597	湖北		松徳	186
	大庭幼		朝酌	116	鹿島		開星	
	持田幼	11	法吉	20	島根	66	淞南	294
	古江幼	6	竹矢		美保関		松江西	
	秋庭幼		乃木	849	八雲		★高專	1,086
	佐太幼	11	忌部		宍道		宍道(定/通)	1,689
	講武幼		大庭	485	宍道分校		松工(定)	
	たまゆ幼保		生馬	116	東出雲	488		
	★やくも幼保	29	持田	312	松徳	74	盲学校	16
	しんじ幼保		古江		開星		★松江ろう	29
	幼保園のぎ		本庄	71			松江養護	202
	城西幼保	118	大野	19	八束学園		清心養護	58
	★出雲鶴幼稚	98	秋鹿				★島大附属	757
	★揖屋幼保	156	恵曇				★緑が丘	43
	★意東幼保	60	佐太	84				
	島大附属幼		鹿島東					
	育英幼	7	島根	115				
	育英北幼	23	美保関					
	融合こども園	58	八雲					
	*出雲郷(保)		宍道					
	*揖屋(保)		来待	96				
	*意東(保)		来待分校					
	御津(保)	27	意東	204				
	美闘東(保)	13	揖屋	15				
	★美保関西(保)	12	出雲郷	467				
	こばと(保)							
	わかたけ(保)							
	まつお(保)	30						
	みずうみ第2(保)	60						
	虹の子(保)							
	嵩見(保)							
	やつか(保)	83						
	みずうみ(保)	66						
	袖師(保)	86						
	みどり(保)	54						
	わらべのその(保)	60						
	融乳児園(保)	37						
	しらゆり(保)	27						
	しらゆり第2(保)	26						
	しらゆり千島(保)	24						
	シオンこひじ(園)	40						
	愛恵(保)							
	湯町(保)	125						
	みのり黒田(保)							
	★北津ヶ丘(保)	62						
計	32	1,489	21	6,376	8	3,257	16	6,010
安来市	安来幼		★十神	349	第一	458	安来	3
	島田こども(幼)		社日		第二	72	情報科学	249
	荒巣こども(幼)		島田	169	第三	140		
	布部こども園		宇賀荘	44	広瀬	137	安来分教室	17
	広瀬こども園		南	63	伯太	110		
	比田こども園		能義	62				
	母里こども園	36	飯梨	33				
	安田こども園		荒島					
	井尻こども園		赤江					
	★江戸こども園	17	広瀬	177				
	飯梨こども園		比田	21				
	大塚こども園		山佐	11				
	安来(保)		布部	12				
	切川(保)		安田					
			母里	70				
			井尻	13				
			赤屋					
計	2	53	12	1,024	5	917	3	269

· · · R 5 加盟校

★ · · · R 6 新規加盟校

市町村	幼・保	人数	小	人数	中	人数	高・特支	人数
	今市幼	38	今市		第一		平田	444
	大津幼	44	★大津	679	第二	493	出雲	853
	上津幼		上津	40	第三	770	出雲工業	419
	塩治幼		塩治		河南	326	出雲商業	455
	古志幼		神戸川		河南分校		出雲農林	5
	高松幼	39	神戸川分校		浜山	468	大社	707
	長浜幼		高松		★南	61	出雲北陵	
	四絃幼		長浜		★平田	386	出雲西	
	★高浜幼	7	四絃		向陽			
	川跡幼	47	高浜		佐田	69	★出雲養護	315
	鳴巣幼		北陽	649	多伎	66	みらい分教室	
	朝山幼		みなみ		湖陵			
	稗原幼		稗原		大社	387		
	神門幼		神西		斐川東	270		
	神西幼		平田		★斐川西	569		
	中央幼		灘分					
	平田幼		**国富					
出雲市	東幼		**西田	48	R6 末で 国富・西田・鰐淵・北浜の 4校統合し (R7 新) 旅伏小へ			
	湖陵幼		**鰐淵					
	大社幼	26	さくら					
	荒木幼		朝陽	196				
	遙穂幼	14	**北浜					
	莊原幼		伊野	59				
	西野幼		**窪田	32	R6 末で 須佐・窪田の2校統合し (R7 新) 須佐小へ			
	中部幼		須佐					
	北陵こども園		多伎					
	神門(保)	111	湖陵					
	神門第二(保)	103	大社					
	あすなろ(保)	155	荒木					
	あすなろ第2(保)	136	遙穂	125				
	たいしゃ(保)	124	莊原	17				
	一の谷(保)	74	西野					
	窪田(保)		中部					
	平田西(保)		出東					
計		13	918	9	1,845	11	3,865	7 3,198
雲南市	大東こども(幼)		大東		大東	284	大東	
	★西こども(幼)	9	西		*海潮		三刀屋	418
	佐世幼		佐世	80	加茂		三刀屋分校	
	灘灘こども(幼)	2	阿用		本次	233		
	本次こども(幼)		海潮	53	三刀屋		雲南分教室	
	斐伊こども(幼)		加茂		★吉田	19		
	寺籠こども(幼)		本次		掛合	47		
	三刀屋こども(幼)		斐伊					
	加茂こども園	160	寺領					
	斐伊(保)		西日登					
	かもめ(保)		三刀屋	228				
	掛合(保)	48	鍋山	48				
	田井(保)		吉田					
	吉田(保)		田井	15				
	大東(保)		掛合					
計		4	219	5	424	4	583	1 418

市町村	幼・保	人数	小	人数	中	人数	高・特支	人数
奥出雲町	三成(保)		布勢		仁多		横田	196
	三沢(保)		三成	99	横田			
	阿井(保)		**高尾	3	R6末で 高尾 が閉校 (R7新) 三成小へ			
	布勢(保)	22	亀嵩	47				
	亀嵩(保)	32	阿井					
	横田(保)	87	三沢					
	馬木(保)	13	*鳥上					
	八川(保)	13	横田		R6末で 八川・馬木の2校が閉校 (R7新) 横田小へ			
			**八川					
			**馬木					
計	5	167	3	149	0	0	1	196
飯南町			頓原		頓原		飯南	6
			志々		赤来	63		
			赤名					
			来島	40				
計	0	0	1	40	1	63	1	6
浜田市	浜田幼		原井		第一		浜田	499
	夕日ヶ丘幼		*雲雀丘		第二		浜田商業	221
			松原		第三		★浜田水産	126
			石見		*第四		浜田(定)	
			美川		浜田東		浜田(通)	
			周布		金城	90		
			長浜		旭	60	浜田養護	65
			国府		弥栄		浜田ろう	7
			三階		三隅	109		
			雲城					
			今福					
			波佐					
			旭					
			弥栄					
			三隅					
			岡見					
計	0	0	0	0	3	259	5	918
大田市	大田幼		大田	146	第一	408	大田	364
			長久	197	第二	227	瀬摩	246
			五十猛		北三瓶			
			静間	60	志学		大田分教室	
			鳥井	44	第三	9	瀬摩分教室	
			久手	171	大田西	129		
			朝波					
			北三瓶	17				
			志学	16				
			川合	60				
			久屋					
			大森	29				
			高山					
			温泉津	65				
			仁摩	131				
計	0	0	11	936	4	773	2	610
江津市	あさりこども園	52	郷田		江津	217	江津	173
	さくらこども園	31	★渡津	85	江東		★江津工業	117
			江津東	7	青陵	186	★石見智翠館	459
			川波		桜江		利外教愛真	
			津宮	319				
			高角				江津清和	
			桜江	80				
	計	2	83	4	491	2	403	3
川本町			川本	126	川本	58	島根中央	250
計	0	0	1	126	1	58	1	250

市町村	幼・保	人数	小	人数	中	人数	高・特支	人数
邑南町	邑智		邑智	106	邑智			
	大和		大和	56	大和	26		
	計	0	0	2	162	1	26	0
	口羽		口羽	20	羽須美	27	矢上	269
	阿須那		阿須那	17	瑞穂	75		
	高原		高原	40	石見	122	石見養護	25
	瑞穂		瑞穂	129				
	市木		市木	9				
	矢上		矢上					
	日貫		日貫					
益田市	石見東		石見東					
	計	0	0	5	215	3	224	2
	益田幼		高津	378	益田	421	益田	
	吉田幼		吉田	669	高津	200	益田翔陽	9
	益田天使幼		吉田南	151	益田東	205	明誠	
	安田		安田	169	東陽	139	益田東	
	鎌手		鎌手	33	横田	98		
	真砂		真砂	9	小野	28	益田養護	76
	豊川		豊川	36	中西			
	西益田		西益田	136	美都	17		
津和野町	桂平		桂平		匹見			
	戸田		戸田	41				
	中西		中西	72				
	益田		益田	305				
	東仙道		東仙道					
吉賀町	都茂		都茂	25				
	計	0	0	12	2,024	7	1,108	2
	★津和野		★津和野	113	津和野	73	津和野	161
	木部		木部	20	日原	57		
	★日原		★日原	67				
隠岐の島町	青原		青原	35				
	計	0	0	4	235	2	130	1
	柿木		柿木	53	柿木	23	吉賀	95
	七日市		七日市	38	吉賀			
	朝倉		朝倉		六日市	40		
	六日市		六日市	95				
	蔵木		蔵木					
	計	0	0	3	186	2	63	1
	福井		福井		海士	60	隱岐島前	151
	海士		海士	51				
計	0	0	1	51	1	60	1	151
西ノ島町			西ノ島	104	西ノ島	48		
計	0	0	1	104	1	48		
知夫村			知夫		知夫	9		
計	0	0	0	0	1	9	0	0
合計	西郷		西郷		西郷	147	隠岐	197
	中条		中条	65	西郷南	96	隠岐水産	
	有木		有木		五箇	38		
	磯		磯	36	都万		隠岐養護	22
	北		北	13				
	五箇		五箇					
計	0	0	3	114	3	281	2	219
幼・保	58園	(新規: 9園)	【参考】R5 加盟校					56園
小学校	98校	(新規: 5校)						102校
中学校	60校	(新規: 5校)	※義務教育学校含む					58校
高 校	36校	(新規: 4校)	※高専含む					32校
特別支援	13校	(新規: 3校)						10校
合 計	265校	(新規: 26校・園)						258校

5. 赤十字奉仕団

(1) 奉仕団の概況

日本赤十字社赤十字奉仕団規則に基づいて、県内の市町村毎に地域赤十字奉仕団を結成している。

また、学生を含めた青年および特定の職能を有する人たちが特別赤十字奉仕団を結成し、それぞれの特性と能力を活かして奉仕活動を展開している。

活動分野は、広範囲にわたっており、赤十字思想の普及、青少年赤十字の普及・育成、献血の推進および採血業務の援助、高齢者福祉の推進等を中心に、社会情勢の変化学や国民生活の実態に即した活動を行っている。

奉仕団では研修会、協議会等を通じて、団員の意識や知識・技術の向上を図っている。

また、『日本赤十字社島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会』を開催し、各奉仕団の連携と協働を図り、横断的な繋がりを強化している。(同協議会に青少年赤十字指導者協議会会長も出席し、JRCとの連携も図っている。)

(2) 奉仕団の設置と活動状況

ア. 地域赤十字奉仕団 (浅津知子委員長: 団員2,165名 市町村毎 17団)

昭和32年4月1日に県内の市町村毎に奉仕団を結成し、地域のニーズに即した奉仕活動を行っている。赤十字思想の普及・赤十字活動資金(会費)募集、非常災害に対する防災・救助活動、救急法の講習、地域子育て支援等の赤十字事業の推進を行っている。



①研修会・会議

1) 県内全体会

	事業名	期日	会場	備考(参加者等)
1	赤十字奉仕団島根県支部委員会 地域赤十字奉仕団総会・研修会	6月2日	島根県民会館	参加者: 支部委員会委員長、 副委員長4名、団員33名 総会 ・令和5年度事業報告 ・各種事業参加者報告 ・令和6年度事業計画 研修会 ・大阪・関西万博について ・令和6年能登半島地震 島根県支部救護班活動報告
2	島根県支部赤十字奉仕団委員長 協議会	8月27日	日本赤十字社島根県支部 (松江市)	支部委員会委員長

2) 県内地域別研修・講習・訓練参加

事 業 名		期 日	会 場	備 考 (参加者等)
1	赤十字防災セミナー	7月8日	江津市総合市民センター (江津市)	江津市赤十字奉仕団 55名
2	島根県総合防災訓練	10月27日	益田赤十字病院 (益田市)	益田市赤十字奉仕団 18名



3) 全国・第5ブロック会議等団員派遣

事 業 名		期 日	会 場	備 考 (参加者等)
1	全国赤十字大会	5月15日	明治神宮会館 (東京都)	委員長、分団長 1名
2	赤十字ボランティア・リーダー研修会	8月24日～26日	日赤本社 (東京都)	地域赤十字奉仕団 1名
3	中国・四国ブロック赤十字奉仕団協議会	9月24日～25日	日本赤十字社広島県支部 (広島県)	支部委員会委員長
4	中国・四国ブロック赤十字奉仕団研修会	10月17日～18日	あわぎんホール・ 鳴門市ドイツ館 (徳島県)	地域赤十字奉仕団 2名参加

②赤十字活動資金（会費）への協力

令和6年度実績 141件 234,300円

イ. 特別赤十字奉仕団

設立目的に応じ、奉仕団の特性と能力を生かした赤十字活動の推進にあたっている。島根県支部には、青年層で組織した青年赤十字奉仕団と特殊技能を有する特殊赤十字奉仕団が設立されている。

各々特技を生かし、献血思想の普及、災害救護、救急法等の技術知識の習得、施設奉仕、公共施設の清掃奉仕等様々な活動を行っている。また、それぞれの奉仕団において、研修会、協議会、その他の各種会合を開いて意識向上を図っている。

①青年赤十字奉仕団

平成17年に設立されたしんじ湖青年赤十字奉仕団（足立剛委員長：団員7名）並びに平成22年に設立された島根大学学生赤十字奉仕団ぶらす（伊藤祐月委員長：団員22名）の2単位団が活動している。

全国及び第5ブロック（中四国）の研修会等で培った知識・技術を生かして、赤十字思想の普及、地域のニーズに即した活動を積極的に実践している。また全国や第5ブロックの協議会及び研修会等へ代表者を派遣し、赤十字に集う若いネットワークを通じて、活発に協議・情報交換を行い、交流を深めている。



1) 本社・ブロック主催の会議・研修会等

	事業名	期日	会場	備考（参加者等）
1	第5ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会代表者会議	6月8日～9日	徳島市シビックセンター（徳島県）	委員長
2	第5ブロック青年赤十字奉仕団研修会	9月7日～8日	日赤愛媛県支部（愛媛県）	団員3名

2) 支部主催事業への参加・活動協力

	事業名	期日	会場	備考（参加者等）
1	島根県青少年赤十字メンバー リーダーシップ・トレーニング・センター（小・中・高合同）	7月31日～8月2日	サン・レイク（出雲市）	団員1名
2	SDGsエシカルマルシェ	8月18日	朱鷺会館（出雲市）	団員3名
5	海外たすけあい オープニングセレモニー	12月1日	NHK松江放送局（松江市）	委員長、団員1名

3) 青年赤十字奉仕団主催の活動

	事業名	期日	会場	備考（参加者等）
1	新入生向けサークルイベント	4月6日～7日	島根大学（松江市）	
2	第74回松風祭（島根大学大学祭）模擬店・募金活動	10月13日～14日	島根大学（松江市）	委員長、団員17名
3	社会福祉法人へのボランティア	10月20日	社会福祉法人ふらっと（松江市）	団員2名
4	海外たすけあい募金活動	11月22日	イオン菖蒲店（松江市）	団員4名
5	定例会	月1回	島根大学（松江市）	

②みずうみ赤十字奉仕団（松本淑子委員長：団員32名）

松江市の有志により昭和31年3月10日に設立され、地域に根ざした地道な活動を展開している。高齢者施設への訪問活動や青少年赤十字加盟校との交流活動を通じ、入所者および青少年赤十字メンバーとの親睦を図っている。



1) 主要実施活動

事業名		期日	会場	備考（参加者等）
1	総会	5月18日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、団員15名 令和5年度事業報告及び決算報告 令和6年度事業計画及び予算
2	日赤島根県支部赤十字奉仕団 委員長協議会	8月27日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長
3	役員会	10月7日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、団員5名
4	施設訪問（古布ふきん持参）	9月25日	津田の里（松江市）	委員長、団員3名
5	戦争犠牲者慰靈塔清掃、供養	9月27日	緑山公園（松江市）	委員長、団員8名
6	古布ふきんづくり・アシスト 瓦づくり	10月29日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、団員11名
7	能登半島大雨災害義援金	10月29日	日赤島根県支部 (松江市)	
8	NHK歳末・海外たすけあい オープニングセレモニー	12月2日	NHK松江放送局 (松江市)	団員2名
9	児童福祉施設支援金	1月21日	日赤島根県支部 (松江市)	支部を通して県内13か所の児童福祉施設へ
10	出雲市能登半島支援活動	2月1日	イオンモール（出雲市）	団員7名
11	アシスト瓦作り	2月21日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、団員5名
12	高齢者施設訪問	3月13日	サンフラワー苑 (松江市)	団員3名
13	情報誌 ザレッドクロスみずうみ	3月下旬発刊	日赤島根県支部 (松江市)	編集委員 委員長、団員3名
14	乳児院ボランティア	—	松江赤十字乳児院 (松江市)	第1・第2・第3日曜日 洗濯物整理・エプロン作り（随時）
15	特別義援金	随時	日赤島根県支部 (松江市)	各種災害義援金

2) 赤十字活動資金（会費）への協力

令和6年度実績 39件 110,000円

③島根県無線赤十字奉仕団（金子由次委員長：団員10名）

アマチュア無線家で構成するこの奉仕団は、全団員が防災ボランティアリーダー・サブリーダーとなっており、防災ボランティア地区リーダー養成事業や各種防災訓練などの支部災害救護事業に参画している。また、全国の無線赤十字奉仕団との通信訓練を活発に行っている。



1) 主要実施活動

活動・事業名		期日	会場	参加者（人）
会議	島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会	8月27日	日赤島根県支部（松江市）	1名
事業名	島根県青少年赤十字メンバーリーダーシップ・トレーニング・センター	8月1日	サン・レイク（出雲市）	4名
無線通信訓練	島根県無線赤十字奉仕団による野営非常通信訓練	3月22日～23日	きづき海浜公園（出雲市）	5名
	全国のアマチュア無線赤十字奉仕団との通信訓練			21局

2) 全国のアマチュア無線赤十字奉仕団との通信訓練

	無線通信訓練名	訓練日	通信相手（依頼支部 所属奉仕団）	
1	「熊本地震の日」における災害非常通信訓練	4月13日	JA6ZJY	熊本県無線赤十字奉仕団
2	山口県赤十字アマチュア無線奉仕団 全国無線通信訓練	4月14日	JA4YGI	山口県赤十字アマチュア無線奉仕団
3	「山口県総合防災訓練」に伴う全国無線通信訓練	5月26日	JA4YGI	山口県赤十字アマチュア無線奉仕団
4	鹿児島県総合防災訓練における非常通信訓練	5月26日	JA6YPB	鹿児島県アマチュア無線クラブ
5	宮城県松島市総合防災訓練に伴う全国無線通信訓練	6月16日	JE7YVD JE7YDR	石巻市地区無線クラブ赤十字奉仕団 東松島市アマチュア無線クラブ
6	和歌山県赤十字アマチュア無線奉仕団 全国無線通信訓練	6月15日	JA3YQJ	和歌山県赤十字特別救護隊付無線クラブ
7	北海道赤十字無線奉仕団協議会通信訓練	7月20日	JA8ZFT	北海道赤十字アマチュア無線奉仕団
8	栃木県赤十字アマチュア無線奉仕団による非常通信訓練	7月21日	JH1TSQ	栃木県赤十字アマチュア無線奉仕団
9	鳥取県赤十字アマチュア無線奉仕団全国無線通信訓練	8月25日	JA4YDV JA4ZUE JA4YGA	鳥取県（鳥取・倉吉・米子）赤十字アマチュア無線奉仕団
10	山梨県無線赤十字奉仕団による非常無線通信訓練	10月9日	JR1YBL	山梨県無線赤十字奉仕団
11	群馬県無線赤十字奉仕団館林邑楽分団により全国無線非常通信訓練	10月6日	JR1YWZ JR1YSP	群馬県無線赤十字奉仕団 群馬県無線赤十字奉仕団館林邑楽分団
12	東京都特殊救護赤十字奉仕団主催アマチュア無線全国無線通信訓練	11月10日	JH1ZNX	東京都特殊救護赤十字奉仕団
13	宮崎県総合防災訓練非常通信訓練	11月4日	JA6YRG	宮崎県アマチュア無線赤十字奉仕団
14	日赤第3B支部合同災害救護訓練における静岡県無線赤十字奉仕団非常通信訓練	11月17日	JA2YLV	静岡県無線赤十字奉仕団
15	愛知県赤十字無線奉仕団による無線通信訓練	12月24日	JH2YWN	愛知県赤十字無線奉仕団
16	茨城県支部アマチュア無線奉仕団による非常無線通信訓練	12月22日	JH1YIB	茨城県支部アマチュア無線奉仕団
17	鹿児島県赤十字アマチュア無線奉仕団による非常通信訓練	1月11日	JA6YPB	鹿児島県アマチュア無線クラブ
18	大阪赤十字機動救助奉仕団による通信訓練	1月26日	JA3YDO	大阪赤十字機動救助奉仕団
19	兵庫県無線赤十字奉仕団による全国無線通信訓練	1月17日	JH3YTR	兵庫県無線赤十字奉仕団
20	福岡県赤十字無線奉仕団による無線通信訓練	3月23日	JA6YPV	福岡県赤十字無線奉仕団
21	神奈川県無線救急赤十字奉仕団による非常無線通信訓練	3月22日	JA1YRZ	神奈川県無線救急赤十字奉仕団

④島根県青少年赤十字賛助奉仕団（広原啓視委員長：団員29名）

島根県青少年赤十字指導者協議会の役員であった者、青少年赤十字に深い理解と認識をもつ者がこれまで培った経験や知識を活かして青少年赤十字の普及・啓発支援を行うため、平成16年5月15日に設立。学校での活動や校長会などでの普及・啓発活動のほか、会議や研修等を通じて全国や第5ブロックの賛助奉仕団と連携を深め活動を展開している。



1) 主要実施活動

	事業名	期日	会場	備考（参加者等）
1	役員会	4月4日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員5名 総会および研修会について
2	加盟登録式	4月23日	安来市立第三中学校（安来市）	支部指導講師1名派遣 青少年赤十字について
3	加盟登録式	4月24日	安来市立伯太中学校（安来市）	支部指導講師1名派遣 青少年赤十字について
4	総会・研修会	5月11日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員14名 研修会：令和6年能登半島地震 島根県支部救護班 活動報告
5	「いとすぎ」全国版 編集会議	6月12日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員4名
6	島根県青少年赤十字指導者協議会 役員会・総会	6月13日	ホテル白鳥（松江市）	委員長
7	「いとすぎ」全国版 編集会議	6月24日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員5名
8	加盟登録式	7月4日	安来市立第一中学校（安来市）	支部指導講師1名派遣 青少年赤十字について
9	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会 役員会・総会	7月10日 ～12日	日赤本社（東京都）	委員長、団員（全国役員）
10	島根県青少年赤十字メンバーリーダー ^{シップ} ・トレーニング・センター (小・中・高合同)	7月31日～ 8月2日	サン・レイク（出雲市）	団員4名
11	「いとすぎしまね」編集会議	8月19日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員4名
12	島根県支部赤十字奉仕団委員長 協議会	8月27日	日赤島根県支部（松江市）	幹事長
13	役員会 および 「いとすぎ」全国版 編集会議	9月9日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員5名
14	島根県青少年赤十字賛助奉仕団 創立20周年記念講演会	10月6日	日赤島根県支部（松江市）	団員15名、地域奉仕団より2名
15	第5ブロック青少年赤十字賛助奉仕団 連絡協議会・研修会	10月24日 ～25日	鳥取赤十字病院（鳥取県）	委員長、幹事長
16	「いとすぎしまね」編集会議	10月30日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員4名
17	「いとすぎ」全国版 編集会議	11月14日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員5名
18	「いとすぎ」全国版 編集会議	12月11日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員4名
19	「いとすぎしまね」編集会議	12月19日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員4名
20	児童福祉施設支援金	—	日赤島根県支部（松江市）	支部を通して県内13か所の児童福祉施設へ
21	特別義援金	随時	日赤島根県支部（松江市）	各種災害義援金
22	「いとすぎ」全国版 編集会議	1月15日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員5名
23	島根県青少年赤十字指導者講習会	2月13日	サンラボーむらくも (松江市)	団員8名参加
24	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会 第2回役員会	3月11日 ～12日	日赤本社（東京都）	団員1名出席（全国役員）
25	役員会 および 「いとすぎしまね」編集会議	3月28日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員7名

⑤島根理容赤十字奉仕団（福代一成委員長：団員225名）

令和6年度活動記録：24施設と在宅家庭において、延べ210人の奉仕団員が、延べ264回 15,242人に対して理容奉仕活動を実施した。

⑥松江邦楽赤十字奉仕団（舟木護委員長:団員267名）

尺八、琴、三味線、日本舞踊の関係者により昭和31年8月4日に設立され、発表会の集積等を支援金・救援金に寄託している。

(3) 赤十字奉仕団支部指導講師

赤十字奉仕団支部指導講師は、日本赤十字社島根県支部が行う各奉仕団研修会やJRCメンバー・指導者協議会等において、講演や研修指導等の活動を行っている。令和6年度は新たに1名の講師を養成し、当支部には12名の指導講師が在籍している。

6. 医療事業・保健衛生活動

(1) 松江赤十字病院

松江赤十字病院は、日本赤十字社の全国91病院の一つで、昭和11年4月県立松江病院の廃止移管を受け、日本赤十字社松江支部病院として創設し、昭和18年1月に松江赤十字病院と名称変更し今日に至っている。



80有余年の長い歴史の中で、社会情勢の変化に応じた医療需要に対応し、高度・良質な医療の提供を行う県東部の中核病院として常に主要な役割を果たしてきた。

国の進めている病病・病診連携を実現すべく当院の役割分担を明瞭化し、松江医療圏域あるいは島根県全体の急性期医療を中心的に担い、高度な医療を提供する施設として期待されるところである。

そうした高度医療提供の期待に応えるべく、平成16年4月には、救命救急センターを開設、平成17年1月には地域がん診療拠点病院の指定を受け、さらに平成19年2月には県内3番目に「地域医療支援病院」の承認を得るとともに同年4月には「がん相談支援センター」を開設するなど引き続き地域における中核病院としての役割を果たすこととしている。

また、当院は赤十字病院としてDMA Tや救護班要員を備え、大規模災害発生時には被災地の医療支援も使命の一つである。平成23年の東日本大震災や平成28年熊本地震、令和6年能登半島地震にはDMA T、救護班などを現地に派遣し医療支援を行った。

病院建設については、建物・機器の老朽化や耐震などの災害対応、療養環境の改善等のため約172億円の予算で平成19年2月に全面改築に着手した。病棟・検査部門・給食部門等からなる高層館は平成21年12月に、外来部門・管理部門等からなる本館は平成24年4月に竣工となり、その後外構工事・公開空地の整備を行い、平成25年4月に事業を完了している。

また、平成24年度より本院機能の補完、慢性的な外来駐車場不足解消を目的とし、別館関係工事に着手し、平成25年2月に別館1、別館2、保育所を、平成25年10月には旧看護学校解体跡に駐車場（102台）を設置した。平成26年3月には一連工事の終了をもって新築工事竣工記念式典を举行了。

平成29年3月にはハイブリッド手術室、令和6年12月には、ロボット手術を導入し医療の質を高める取り組みを継続的に行つた。

令和3年12月には松江市立病院との連携と協力に係る基本協定を締結。令和6年12月には、松江圏域10病院における医療医機能連携協定を締結し地域医療連携の強化と機能分担を進めている。

ア. 病院の現況

①敷地・建物（病院部分）

敷地 9,250.10m²

本館 地上6階建 10,175.62m²

高層館 地上14階建地下1階 31,293.37m²

合計 41,468.99m²

②病床数

599床（一般病床552床、精神45床、感染2床）

③診療科目（27科）

内科、精神神経科、神経内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、膠原病・腎臓内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、皮膚科、泌尿器・副腎外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科

④職員数

1,188人 (医師145人、看護師609人 他 ※令和7年3月31日現在)

⑤特殊施設

人工透析センター、ICU、CCU、NICU、GCU など

⑥その他

地域医療支援病院、臨床研修指定病院、第二次医療圏災害拠点病院、エイズ拠点病院、脳死者からの臓器移植提供施設、地域がん診療拠点病院、地域周産期母子医療センター、救命救急センターなど

イ. 診療状況の概況

○患者数 (令和6年度)

外来患者延数 183,370人 (一日平均 758人)

入院患者延数 170,795人 (一日平均 468人)

(2) 益田赤十字病院

昭和29年4月1日、当時益田市外11町村組合立美濃 共存病院を日本赤十字社が引き受け、益田赤十字病院と改称して発足した。

その後、地域医療に対応するため、昭和32年に増改築、昭和46年に新築移転を行い、現在では、県西部における中核病院として、第二次救急指定病院、エイズ拠点病院、災害拠点病院、第二種感染症医療機関、地域がん診療連携推進病院、地域周産指定され、その役割を果たすべく施設、設備の整備・診療体制の強化・地域住民の健康維持並びに福祉の充実・向上に努めている。

また、赤十字病院としてDMATや救護班要員を備え、災害発生時には被災地の医療支援を行っている。今年度も災害時の医療体制構築、関係機関との連携を図るため院内訓練、BCP研修を行った。

平成28年1月に新病院が開院、平成30年1月、地域包括ケアシステムを推進するため入退院センターを設置、また、平成30年3月には地域により信頼される病院を目指し、日本医療機能評価機構 病院機能評価 一般病院2 (3rdG: Ver.2.0) の認定を受けた。

近年では、医療資源の少ない益田圏域において、限られた医療資源を有効活用し、医療機関の相互協力、研修医受入れ体制の充実、医療機能の維持・充実を図るため、津和野共存病院・六日市病院・益田地域医療センター医師会病院・松ヶ丘病院と医療機能連携協定を締結している。また、令和元年5月には自治体である津和野町、令和5年3月には吉賀町と、地域包括ケアシステムの推進、地域医療を担う医療人材の育成を目的とした医療機能連携支援協定を締結した。

ア. 病院の現況

①敷地・建物（病院部分）

敷地 26,325m²

建物 地上6階建 20,400m²

合計 46,725m²

②病床数

284床（一般病床272床、結核4床、感染4床、HCU4床）

③診療科目（23科）

内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、内分泌・代謝内科、膠原病リウマチ内科、脳神経内科、循環器科、小児科、外科、消化器外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻いんこう科、眼科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

④職員数

604人（医師61人、看護師275人 他 ※令和7年3月31日現在）

⑤特殊施設

HCU、NICU、外来化学療法室、血液浄化センター

⑥その他

臨床研修指定病院



イ. 診療状況の概況

○患者数（令和6年度）

外来患者延数 153,114人（一日平均 632人）

入院患者延数 87,805人（一日平均 240人）

(3) 隠岐島前地区巡回診療

昭和7年に支部巡回診療所設置に当たり、「日本赤十字社島根県支部巡回診療班規定」及び「施行細則」が定められ、県内各地における巡回診療が開始された。現在は、隠岐島前地区のみを対象として、町村分区の要請により赤十字病院から医師、看護師等を派遣し、無料の巡回診療を実施することとしている。 ※令和6年度 実施なし

7. 血液事業

(1) 島根県赤十字血液センター

昭和40年2月1日松江赤十字病院分病棟内に移動採血車が配備され、全県で移動採血による200mL献血と、医療機関への血液供給業務を開始した。

その後、昭和41年1月に、松江赤十字病院本院構内で事業を開始し、昭和55年9月には同病院の新館建設に併せ、併設社屋が完成した。

昭和61年4月から、新たに400mL献血、成分献血がスタートしたが、新しい血液事業に対応するため、平成2年3月に、松江市大輪町の県有地に新社屋を建設し現在に至る。

一方、県西部の採血拠点として、昭和41年8月、益田赤十字病院内に益田出張所を開設し、県西部の移動採血を開始した。平成5年同病院の増改築に伴い同病院敷地内に新社屋を建設した。

また、平成22年5月には、出雲市に献血ルーム「ふれあい」を開設した。

輸血用血液の安全性を強化する取り組みとして、平成7年7月から全国統一システムが導入され、平成11年6月からは全国の献血場所で、安全性にかかる情報や今までの献血状況が参照できるようになり、現在では血液事業情報システムとして、経理・用度機能、献血・採血管理機能、製造管理機能、販売管理機能、情報統計機能が稼働している。

平成11年10月からのNAT（核酸増幅検査）の導入、平成15年7月30日には血液製剤の安全性の向上、安定供給の確保及び適正な使用の推進のために「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」が施行された。

平成16年10月より検査目的の献血等を防止するために献血受付時の本人確認、感染症の調査を見直し、平成17年7月より安全対策として新鮮凍結血漿製剤の180日間貯留保管、保存前白血球除去を開始し安全な血液確保に努めている。また、採血による献血者等の健康が害された場合の措置として平成18年10月1日から「献血者健康被害救済制度」が導入された。

平成19年4月、輸血用血液の安全性確保と効率的な事業運営を行うために島根県赤十字血液センターで実施していた検査業務を、また平成20年3月28日からは製剤業務を広島県赤十字血液センターへ集約した。

平成23年4月、それまでの血液製剤の供給業務委託を廃止し、血液センターからの供給を開始した。同年10月には西部地区の供給業務拠点として浜田市に供給出張所を開設した。

平成24年4月、都道府県単位で行っていた事業を、全国に7つの本社直轄施設を設置して事業を実施するため、広島市に中四国ブロック血液センターが設置され検査・製造、需給管理等をブロック単位で集約、安全で均質な血液製剤を安定的に供給する広域的な事業運営体制が開始された。

県内における効率的な事業運営を考慮した結果、平成26年8月31日には出雲市の献血ルーム「ふれあい」業務を、平成30年3月31日に益田市の益田出張所業務を松江市の島根県赤十字血液センターへ集約した。

平成26年3月より島根県赤十字血液センターの愛称を献血ルーム「だんだん」とし、県内唯一の常設献血ルームとして広く県民の皆様へ献血の協力を呼びかけるとともに、平成28年度からは複数回献血クラブ会員サイトを一新し、全国共通のポイント制度を導入するなど、より一層サービスの充実を図った。

また、新たに分割血小板成分献血の導入などの取り組みを行い、必要な血液量を効率的かつ安定的に確保するよう努めた。



ア. 令和6年度採血計画及び実績

①採血目標数 21,967人

②献血実績数 20,445人

1) 月別献血状況

(単位：人)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
献血ルーム（松江）		801	831	827	812	837	809	735	683	793	777	758	857	9,520
移動採血車		977	957	1,014	856	882	930	893	932	934	869	767	914	10,925
計（人）		1,778	1,788	1,841	1,668	1,719	1,739	1,628	1,615	1,727	1,646	1,525	1,771	20,445

2) 市町村別献血状況

(単位：人)

市町村	献血者数		
	200ml	400ml	成分
松江市	0	3,298	0
浜田市	0	585	0
出雲市	0	4,032	0
益田市	0	556	0
大田市	0	435	0
安来市	0	408	0
江津市	0	375	0
雲南市	0	447	0
奥出雲市	0	197	0
飯南町	0	213	0
川本町	0	69	0
美郷町	0	30	0
邑南町	0	224	0
津和野町	0	29	0
吉賀町	0	27	0
隠岐の島町	0	0	0
海士町	0	0	0
西ノ島町	0	0	0
知夫村	0	0	0
母体（松江）	58	2,624	6,838
小計	58	13,549	6,838
合計			20,445

イ. 血液製剤の供給

輸血療法は、適正に行われた場合には極めて有効性が高いことから、広く行われている治療法である。そのため、血液製剤は医療上不可欠のものとされ、他の医薬品と同様、医療需要を満たすための安定供給が求められている。

血液センターでは、輸血を必要とされる患者様に確実、迅速に血液をお届けできるよう供給本数を予測し、それに基づいた採血を行い、日々の在庫管理とWeb発注システムを使用した発注を推進し医療機関から確実迅速に血液製剤の発注をしていただけるように努めている。

また、原材料に由来する感染のリスク等について特段の注意を払う必要があることや、献血者の方からの善意によりいただいた血液であることを十分に認識する必要があることから、医療機関へは「輸血療法の実施に関する指針」に基づき、血液製剤の適正使用をお願いするとともに、血液製剤の安全性に関する情報の収集及び提供を行っている。

○血液製剤供給数

製剤品名		単位数	比率	製剤品名		単位数	比率
照射人全血液 -LR	200mL由来	0	0.000%	照射濃厚血小板	成分由来 1 単位	0	0.000%
	400mL由来	0	0.000%		成分由来 2 単位	0	0.000%
照射解凍赤血液 -LR	200mL由来	0	0.000%		成分由来 5 単位	5	0.007%
	400mL由来	0	0.000%		成分由来 10 単位	40,170	54.332%
赤血球液 -LR	200mL由来	0	0.000%		成分由来 15 単位	15	0.020%
	400mL由来	18	0.024%		成分由来 20 単位	0	0.000%
照射赤血球液 -LR	200mL由来	18	0.018%	濃厚血小板 HLA	成分由来 10 単位	0	0.000%
	400mL由来	25,158	34.028%		成分由来 15 単位	0	0.000%
洗浄赤血球 -LR	200mL由来	0	0.000%		成分由来 20 単位	0	0.000%
	400mL由来	0	0.000%	照射濃厚血小板 HLA	成分由来 10 単位	410	0.555%
照射洗浄赤血球 -LR	200mL由来	0	0.000%		成分由来 15 単位	0	0.000%
	400mL由来	0	0.000%		成分由来 20 単位	0	0.000%
照射合成血 -LR	200mL由来	0	0.000%	照射洗浄血小板	成分由来 10 単位	730	0.987%
	400mL由来	0	0.000%	照射洗浄血小板 HLA	成分由来 10 単位	0	0.000%
新鮮凍結血漿 -LR	200mL由来	0	0.000%	換算単位数合計		73,933	100.0006
	400mL由来	5,718	7.734%				
	成分由来 5 単位	1,696	2.294%				
濃厚血小板	成分由来 1 単位	0	0.000%				
	成分由来 2 単位	0	0.000%				
	成分由来 5 単位	0	0.000%				
	成分由来 10 単位	0	0.000%				
	成分由来 15 単位	0	0.000%				
	成分由来 20 単位	0	0.000%				

(2) 献血運動の推進

日本赤十字社では、昭和40年以来、毎年7月に「愛の血液助け合い運動」を厚生労働省、各都道府県と共に実施している。また、昭和49年以来、民放連の協力を得て実施している「はたちの献血キャンペーン」を1月～2月の2ヶ月間実施している。

令和6年度においては、献血啓発事業として「THINK！献血」プロジェクトを1年間実施している。

ア. 愛の血液助け合い運動〔実施期間：令和6年7月1日～7月31日〕

本年の献血キャンペーンは、厚生労働省、都道府県、日本医師会など、数多くの関係団体や機関の後援のもとに、広く国民各層に対し、献血への理解と協力を呼びかけた。夏場は特に、企業、団体、学校などが長期休暇に入り、献血者が少なくなりがちなため輸血用血液の安定的確保を図っていくための広域的な運動を展開した。

イ. はたちの献血キャンペーン〔実施期間：令和7年1月1日～2月28日〕

献血者が減少傾向にある冬期において、安全な血液製剤の安定供給の確保を図るため、「はたち」の若者を中心に、献血に関する理解と協力をお願いした。大学、高校等にポスターを掲示し若い年齢層へのPR活動を実施。また期間中、献血へご協力いただいた10代、20代の方に、はたちの献血オリジナルクリアカレンダーを配布し、若年層を中心に多くの協力を得た。

ウ. 「THINK !献血」プロジェクト〔実施期間：令和6年6月3日～令和7年4月30日〕

将来にわたり持続可能な献血基盤を構築することを前提として、献血を国民運動として広く周知し、減少傾向である若年層（10～30代）献血者がより自然に献血参加に移行できる風土の醸成とともに、40～60代の各年代に対しても今まで以上に献血運動に賛同いただけるような方策を実施した。

8. 社会福祉事業

(1) 松江赤十字乳児院

松江赤十字乳児院は、昭和24年に松江市立乳児院として創設され、松江赤十字病院が運営にあたっていた。昭和32年、設置主体が松江市から日本赤十字社に移管され、施設名も松江赤十字乳児院となり、県内唯一の乳児院としてその責務を果たしてきた。



平成21年4月には松江市母衣町から南田町に院舎の移転新築を行った。

令和元年度から令和5年度にかけて、養育単位の小規模化を進め、より家庭に近い環境でのケアを取り入れるなど、施設の機能強化に努めている。

○令和6年度の施設利用者数（延）

項目	利用者数（人）
乳児院延入所児数	8,193
育児相談等来所数	329
病児保育利用者数	424

(2) 県内児童福祉施設への援護（『児童福祉施設支援金』の贈呈）

県内の児童福祉施設に入所している子どもたちのために、青少年赤十字メンバー、赤十字奉仕団員等からの支援金の寄託を受け、県内13の児童福祉施設へ贈呈した。本義援金募集は、昭和38年度に「年末義援金」と称して開始し、本年度で62回目となる。

ア. 受付額 286,915円（49件）

イ. 贈呈額 286,915円 ※配分内訳は以下のとおり

施設種類別	施設名	配分額（円）
乳児院	松江赤十字乳児院	27,041
児童養護施設	社会福祉法人双樹学院 双樹学院	47,016
	社会福祉法人せんだん会 安来学園	32,916
	社会福祉法人三隅愛育会 聖喧寮	25,866
児童心理治療施設	社会福祉法人親和会 児童心理療育センターみらい	17,642
児童自立支援施設	島根県立わかたけ学園	19,992
福祉型障害児入所施設	社会福祉法人山陰家庭学院 松江学園	19,992
	社会福祉法人親和会 さざなみ学園	35,266
	社会福祉法人邑智福祉振興会 くるみ邑美園児童部	8,242
	社会福祉法人いわみ福祉会 こくぶ学園	27,041
	社会福祉法人博愛 仁万の里児童部	5,892
医療型障害児入所施設	社会福祉法人島根整肢学園 松江整肢学園	10,592
	社会福祉法人島根整肢学園 島根整肢学園	9,417
合 計		286,915

9. 国際活動

現在、世界における赤十字・赤新月社数は191社（一国一社の原則）である。日本赤十字社はその一員として赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国の赤十字（赤新月）社と連携し、国際援助・協力を行っている。

当支部においても緊急援助と開発援助のいずれにおいても積極的に推進している。



参考：ジュネーブ4条約締約国 196カ国

日本政府が承認している独立国家数 196カ国

国連加盟国数 193カ国

（1）海外救援金の取扱い

紛争、風水害、干ばつ等による被災住民や難民への救援活動については、国際赤十字・赤新月社連盟を中心に一層の努力を傾注して救援活動を展開している。

日本赤十字社でも救援グループの有力なメンバーとして、人的、物的ニーズに応じた救援を行っている。当支部においては、救援金の受付を行い、本社を通じて送金している。

○海外救援金の取扱い（集計期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日）

No	受付項目	件数（件）	金額（円）
1	中東人道危機救援金	3	13,507
2	バングラデシュ南部避難民救援金	3	13,507
3	アフガニスタン人道危機救援金	3	13,506
4	ウクライナ人道危機救援金	18	268,474
5	イスラエル・ガザ人道危機救援金	5	50,000
6	2024年台湾東部沖地震救援金	37	409,823
7	レバノン人道危機救援金	1	3,000
8	通年（無指定海外救援金）	2	6,000
合計		72	777,817

（2）中四国（第5ブロック）各県支部共同国際救援事業

中四国各県支部が共同して資金を拠出し、アジア・大洋州地域の洪水やサイクロンなどの災害に見舞われる国や地域に対して「給水・衛生災害対応キット」資機材の備蓄を継続して支援している

なお、本年度の拠出額は次のとおり。

令和6年度事業費総額 7,000,000円
(内、島根県支部拠出額 645,516円)



(3) 第42回 NHK海外たすけあいキャンペーン

国際赤十字創設120周年、NHKテレビ放送開始30周年の1983年にはじまり、毎年12月に実施しているキャンペーンで、より幅広い人々に支援を届けるとともに紛争や災害など、様々な危機を対象に支援を行っている。

当支部においては、NHK松江放送局をはじめ、山陰合同銀行、島根県農業協同組合、島根県信用漁協連等の協力のもと、下記のとおり救援金の募集及び受付を行った。



ア. 実施期間 令和6年12月1日～25日

イ. 取扱状況（令和7年3月31日現在）

受付場所	件数(件)	金額(円)
日本赤十字社島根県支部	719	248,694
NHK松江放送局	30	350,735
金融機関（山陰合同銀行・県農業協同組合・県信用漁協連分）	54	614,723
郵便振替（日本赤十字社 ※本社取扱分）	190	1,998,595
合計	993	3,212,747

(4) 国際人道法セミナーの開催

実施日	施設	研修名	受講者数(人)
4月3日	松江赤十字病院	新規採用職員研修	60
5月10日	益田赤十字病院	新規採用職員研修	19
9月28日	松江赤十字病院	災害看護論・災害救護研修	53
11月27日	益田赤十字病院	災害看護論・災害救護研修	7